

令和7年度昭島市立学校学校経営重点計画（教育推進計画）年度末評価の結果について

1 目的

- ・各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的に改善を図ること。
- ・各学校が、自己評価及び学校関係者評価の実施とその結果の説明・公表により、保護者、地域住民から自らの教育活動その他の学校運営に対する理解と参画を得て、信頼される開かれた学校づくりを進めること。
- ・教育委員会が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の必要な措置を講じることにより、教育の質を保証し、その向上を図ること。

2 スケジュール

- 4月 学校経営重点計画（教育推進計画）の作成・公表
- 7月～9月 自己評価（中間）の実施、学校評議員への報告
- 11月 児童・生徒、保護者アンケートの実施
- 12月～1月 自己評価（年度末）の実施
- 2月～3月 学校関係者評価の実施
- 3月 指導課への評価結果の提出

3 各学校の評価結果

別紙による

※学校関係者評価（A：十分に達成している B：ほぼ達成している C：もう一歩で達成できる D：達成できなかった）

4 評価結果を受けて

- ・ICT機器を活用した個別最適な学びと共同的な学びの一体的な充実及び主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を各学校で推進できた。
- ・「元気アップガイドブック」の活用や「グッドモーニング60分」の取組により、体力の向上や生活リズムの改善に取り組んだ。
- ・キャリア・パスポートを活用し、小・中学校9年間を通じたキャリア教育の充実を図った。
- ・学校関係者評価では概ね肯定的な評価をいただいているが、各学校がより向上するために取り組むべき課題について、保護者や学校を支える地域の方の視点から貴重なご意見をいただいた。
- ・年度末評価の結果を今年度の教育課程に活かすとともに学校経営重点計画（教育推進計画）の立案を行う。

学校教育目標	◎よく考える子 ◎思いやりのある子 ◎健康で明るい子	ビジョン	【目指す学校像】	○子供たちが、安全・安心に楽しく過ごせる学校 ○家庭・地域と共にある学校 ○子供たちが、学ぶ喜びを実感できる学校
	【目指す児童・生徒像】		○自ら考え、主体的に学ぶ子供 ○互いを尊重し、思いやりのある言動をとることができる子供 ○心身ともに健康で、活力のある子供	
	【目指す教師像】		○人権感覚を磨き、子供を大切にする教師 ○常に向上心を持ち、指導力の向上に努める教師 ○公務員としての自覚を持ち、信頼される教師	

領域	中期経営目標(3年間)	短期経営目標(1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策		
確かな学力	学ぶ楽しさを実感できる授業改善の推進 日常の指導の充実	基礎的・基本的な学習内容の確実な定着	○指導と評価の一体化した授業 ○タブレット端末を活用した授業実践 ○学力調査の結果の分析及び授業改善推進プランの作成・実行 ○めあてを明確にし、振り返りを確実に実行 ○児童が主体的に学ぶ授業の実践	4:4項目全て取り組むことができた 3:3項目は取り組むことができた 2:2項目は取り組むことができた 1:1項目は取り組むことができた	3	4:90%以上の児童が授業が分かると回答 3:80%~90%未満の児童が授業が分かると回答 2:70%~80%未満の児童が授業が分かると回答 1:70%未満の児童が授業が分かると回答	3	○児童が自分の学習を自己評価できるような取組を行った。 ○タブレット端末を活用した学習を1年生の1学期の段階から取り組んだ。 ○指導の振り返りを継続して行い、授業改善を図った。 ○振り返りの時間の確保には課題が残る。	○学校として、授業改善に取り組んだことは評価できる。 ○タブレット端末を活用した学習を1年生の1学期の段階から取り組んだ。 ○児童が主体的に読書に取り組む環境が必要である。 ○東小まつりでも、タブレット端末を児童が使いこなしていた。	A	○校内研究を活用し、児童の姿を数値化できるとよい。 ○振り返りをまとめる方法としてノートかタブレット端末かを定めるようにする。 ○授業改善推進プランを基に、タブレット端末をより一層活用した授業改善を図る。 ○振り返りの時間を確実に確保する。		
			読書に関する指導や読書の習慣化への取組を日常化した読書活動の充実	○朝読書の計画的な取組 ○読書月間の取組の充実 ○学校図書館・図書支援員の有効活用 ○授業での図書資料の活用	4:14項目全て取り組むことができた 3:3項目は取り組むことができた 2:2項目は取り組むことができた 1:1項目は取り組むことができた	3	4:95%以上の児童が読書が好きと回答 3:85%~90%未満の児童が読書が好きと回答 2:80%~85%未満の児童が読書が好きと回答 1:80%未満の児童が読書が好きと回答	2	○朝読書の時間に教科に関連した資料の紹介を行った。 ○読書月間の取組では、図書支援員を活用し、読書クイズやパネルシアターを行った。 ○授業で図書室・図書資料を十分に活用できなかった。 ○国語の授業で単元に関連する図書資料を教室に置き、調べ学習の手段として活用した。	○本に興味をもつような様々な取組は評価できる。 ○教室に置く図書資料の充実を図り、読書=図書室というパターンを改めていく必要がある。 ○児童が主体的に読書に取り組む環境が必要である。 ○家庭でも活字に慣れる工夫が必要ではないか。	B	○タブレット端末の活用も含めた読書活動の充実を図る。 ○読書月間の取組内容をさらに広げていく。 ○第二図書室を有効活用したい。 ○学級に置く調べ学習に活用できる図書資料を充実させる。	
				多様性に応じた指導、インクルーシブ教育の推進	○校内外委員会の充実 ○特別支援教室教員との連携 ○ユニバーサルデザインを意識した環境づくり ○個に応じた教材・教具の工夫	4:4項目全て取り組むことができた 3:3項目は取り組むことができた 2:2項目は取り組むことができた 1:1項目は取り組むことができた	3	4:90%以上の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答 3:80%~90%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答 2:70%~80%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答 1:70%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答	4	○校内外委員会に全教員が参加したことによって、確実な情報共有と対応の検討・協議を行うことができた。 ○担任と特別支援教室教員の情報共有が不十分だった。 ○児童への視覚刺激の調整、活動の見える化など、ユニバーサルデザインを意識した教室環境を心掛けている。 ○一人一人に合った教材を活用して指導した。	○教員全員で特別支援教育の充実に取り組んでいるように感じている。 ○担任と特別支援教室教員の情報共有は十分に行ってほしい。 ○特別支援教育については引き続き重点的に取り組んでほしい。 ○校内委員会への全教員参加は素晴らしい。成果指標に表れている。	A	○校内委員会運営マニュアルに沿って、支援体制の充実をさらに図っていく。 ○担任と特別支援教室教員が情報共有する時間を確保する。 ○各教科の特性に応じたユニバーサルデザインに関する取組を充実させる。 ○特別支援教室と連携し、個に応じた教材・教具を工夫する。
					道徳全体計画、年間計画の見直しと「特別の教科 道徳」の授業改善と充実	○教職員同士による授業参観 ○道徳的価値や内容項目を明確にし、児童の姿を捉え取る ○年間指導計画の確実な実施 ○全教育活動を通じた道徳教育の実施	4:4項目全て取り組むことができた 3:3項目は取り組むことができた 2:2項目は取り組むことができた 1:1項目は取り組むことができた	3	4:90%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答 3:85%~90%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答 2:80~85%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答 1:80%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答	4	○他の学級の授業参観をする時間を確保したい。 ○参観して学びを自分の授業に生かしたい。 ○道徳の全体計画、年間指導計画を見直す必要がある。	○教員が共通理解を図り、組織的に道徳教育に取り組む必要がある。 ○道徳参観は今後も継続して行ってほしい。 ○道徳授業地区公開講座で行った「東小の歴史」の講演が、児童の愛校心を育む素晴らしい取組だった。 ○教員の取組と成果指標の差を検討すべき。	A
			いじめの未然防止と早期発見、早期対応を推進し、安全で安心な学校の実現			○毎学期のアンケートを生かし、スクールカウンセラーや専門機関と連携し、いじめ・不登校の実現 ○学校のいじめ対策委員会を中心とした迅速かつ密な情報共有による組織的な対応	4:アンケート実施後の個別対応100% 3:アンケート実施後の個別対応95% 2:アンケート実施後の個別対応90% 1:アンケート実施後の個別対応85%	3	4:不登校(傾向を含む)人数0人 3:1人 2:2人 1:3人	1	○毎学期のアンケートで挙がった情報を、組織的に把握し、指導に生かしていると感じる。 ○生活指導に関する重大事案については、学校いじめ対策委員会を臨時開催し、事実確認と今後の方針、役割分担などを話し合い、組織的に対応できた。	○学校として情報共有され、様々な児童の訴えも受け入れながら対応していると感じる。 ○不登校になる原因と分析の把握に努める。 ○いじめをなくす観点からも、多様な他者を知り、理解する教育活動が必要である。	C
				学校行事等を通して異年齢間の交流を深め、豊かな人間性の育成		○保育園・中学校・高等学校・高齢者等との交流体験活動の実施 ○外部講師等を活用した実践的体験活動の実施 ○学園祭を活用した栽培体験学習の実施 ○縦割り班活動の実施	4:4項目全て取り組むことができた 3:3項目は取り組むことができた 2:2項目は取り組むことができた 1:1項目は取り組むことができた	3	4:90%以上の児童が学校が楽しいと回答 3:80%~90%未満の児童が学校が楽しいと回答 2:70%~80%未満の児童が学校が楽しいと回答 1:70%未満の児童が学校が楽しいと回答	3	○「サマースクール」での高等学校生徒によるボランティア活動や、こども園・保育園・小学校の定期交流を行った。 ○米作りや大豆に関する実践的体験活動を、外部講師を招聘して行うことができた。 ○栽培体験活動は十分にを行うことができなかった。 ○農家の方々を招いての食育への取組が高まった。	○「サマースクール」での高等学校生徒が親身に関わり、様々な活動を行った。これらも継続してほしい。 ○異年齢交流は大切なので、さらに交流の幅を広げたい。 ○縦割り班活動はともよい取組だと思える。 ○農家が整っているのに栽培活動が少ないのは残念である。 ○農家の方々を招いての食育への取組を充実させる。	B
		学年や学級、異年齢集団での遊びの奨励			○休み時間の外遊びの奨励 ○運動に親しみやすい環境整備 ○「東ペンック」での異学年交流遊びの充実 ○運動集会を活用した児童の運動への興味・関心の向上	4:毎週子供たちと一緒に遊ぶ時間の確保3回以上 3:2回 2:1回 1:0回	3	4:90%以上の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答 3:80%~90%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答 2:70%~80%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答 1:70%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答	3	○毎週3~4日は子供たちと体を動かすことを心掛けた。 ○外遊びの内容に限りがある。 ○「東ペンック」の取組を通して異学年の交流ができた。 ○運動委員会の児童が主体的に集会の活動内容を考え、実践する取組を行った。(短なわ集合、長なわ集合)	○「東ペンック」や「運動委員会の取組」により、外で体を動かす時間が増えていると感じる。 ○児童の動きやすさや服装にも配慮している。 ○気配の高い「夏」などのように運動量を確保するかが課題である。	B	○引き続き子供たちと外で遊ぶ時間を確保する。 ○子供たちに遊びの種類なども紹介できるようにする。 ○東ペンックの開催時は、全教員で指導にあたり、全児童が体を動かす楽しさを味わえるようにする。 ○「元気アップガイドブック」を活用し、運動委員会児童が主体的に遊びを開発し、集会を企画する計画を立てる。
			年間を通した体力向上への取組(「元気アップガイドブック」等活用)		○「元気アップガイドブック」の活用及び「グッドモーニング60分」への取組 ○運動の特性を生かす体育授業改善 ○めあてが明確な学習の展開 ○オリンピック・パラリンピック大会後のレガシーを生かした取組	4:4項目全て取り組むことができた 3:3項目は取り組むことができた 2:2項目は取り組むことができた 1:1項目は取り組むことができた	3	4:90%以上の家庭が体力向上に満足と回答 3:80%~90%未満の家庭が体力向上に満足と回答 2:70%~80%未満の家庭が体力向上に満足と回答 1:70%未満の家庭が体力向上に満足と回答	1	○「元気アップガイドブック」の活用が一時的になり、継続した使用ができていない。 ○体育の授業では、運動量の確保を重視し、内容を工夫している。 ○児童の考えや意見に基づき体育の学習計画を立て、実施した。	○児童が楽しみながら運動できる体育学習に期待する。 ○広い校庭を活用して、児童には思いっきり運動してもらいたい。 ○各学年の実態に応じた体力向上に資する取組を期待する。 ○「元気アップガイドブック」が改訂されたから、取組を見直すのはよい。	C	○OITの内容を生かし、授業や委員会活動で元気アップガイドブックを活用する機会を設ける。 ○教師が運動の特性をしっかりと理解し、その特性を児童が楽しく味わえるよう授業を展開して必要がある。 ○児童が主体的にめあての達成に向けて課題解決に向かうことができる授業づくりを行う。
				食育の充実	○ランチルームの計画的な有効活用 ○栄養教諭や共同調理場と連携した食育の推進 ○地域人材や資源を活用した食育に関する授業の実施	4:年間食育に関する授業の実施3回以上 3:2回 2:1回 1:0回	3	4:年間の残菜率7% 3:年間の残菜率8% 2:年間の残菜率9% 1:年間の残菜率10%	2	○各学年年間一回ランチルーム給食を実施した。1年生のランチルーム給食では、地域の方5名を招待し、交流を行った。 ○年間の残菜率が9%に上昇したのは残念である。 ○社会科の学習で栄養教諭と協力して、災害時の非常食について授業を行った。	○ランチルーム給食の取組はよい取組である。 ○食育の授業は低学年から充実させたい。 ○保護者の給食体験会等もあってよいと思う。 ○農家の方による野菜の育て方の講話や直売所に社会科見学に行くなどの実践を取り入れるのはどうか。	B	○ランチルーム給食を活用した地域との交流を引き続き行う。 ○残菜率が減らせるよう、食育に関する授業を行う。 ○外部人材を効果的に活用した授業づくりを行う。 ○次年度も栄養教諭と連携した食育指導の充実を図っていく。
		一人一人のよさを生かし、意欲とまとまりのある学級集団づくり			○学級経営の振り返り・評価・改善 ○児童の考えや意見を生かした教育活動の工夫 ○学級満足度調査「Q-U」の結果を有効に生かした児童理解・学級づくり ○学級満足度調査「Q-U」の結果を有効に生かした課題の把握・改善	4:4項目全て取り組むことができた 3:3項目は取り組むことができた 2:2項目は取り組むことができた 1:1項目は取り組むことができた	3	4:QUの結果で各学級の要支援層0人 3:1人 2:2人 1:13人	3	○選案を活用し、毎週学級経営の振り返りと改善を行った。 ○児童が伸び伸び活躍できる学級経営の実現に努めた。 ○「Q-U」の結果を学級経営にうまく生かして切れていない。	○児童同士の意見を尊重し、行事を作り上げていくための教員のサポートができていないと感じる。 ○児童一人一人の目標に立った対応を心掛け、児童のよさを生かした学級集団づくりを目指す。 ○QUの結果を踏まえ、組織的な取組となれば、よりよいと思う。	B	○高学年では、自ら考え行動し、実現させる内容の授業を計画的に行う。 ○特別支援教室でも「Q-U」の結果を活用する。 ○心理士等と連携し、「Q-U」の結果を基に学ぶ機会があるとよい。
			学級活動を中心に、全教育活動におけるキャリア教育の充実		○学校生活への適応 ○仲間づくり、集団の結束 ○自ら役割の自覚 ○年間指導計画に応じたキャリア教育の実践	4:4項目全て取り組むことができた 3:3項目は取り組むことができた 2:2項目は取り組むことができた 1:1項目は取り組むことができた	3	4:90%以上の児童が得意・ものを考えると回答 3:80%~90%未満の児童が得意・ものを考えると回答 2:70%~80%未満の児童が得意・ものを考えると回答 1:70%未満の児童が得意・ものを考えると回答	2	○行事や日頃の学級活動を通して、子供たち同士のつながりが強くなるように指導した。 ○1年間の行事の中で、一つは実行委員となって活動できるようにしてきた。 ○キャリアループを基にして目標・振り返りシートを作成し、キャリア教育の実践ができた。	○学級活動を通して、一から何かを作り上げていく力が身に付いていると感じる。 ○一人一役の活動を充実させる取組を通して、児童の成長を期待する。 ○地域と連携した職場体験やボランティア活動等を取り入れるのはどうか。	B	○学校行事を児童の考えや意見を取り入れたが、児童の自己有用感を高める。 ○特別支援教育の視点から通常の学級の学級経営に関するアドバイスを行う。 ○キャリア教育の年間計画を定期的に確認する機会を設けたい。
				保護者・地域と連携し、様々な活動を通して、将来への希望をもたせる	○地域人材・地域資源を活用した取組の充実 ○家庭訪問・個人面談・保護者会等での保護者との情報共有と共通理解 ○専門機関との協力・連携 ○PTA活動への理解と協力	4:4項目全て取り組むことができた 3:3項目は取り組むことができた 2:2項目は取り組むことができた 1:1項目は取り組むことができた	3	4:90%以上の児童が将来について考えると回答 3:80%~90%未満の児童が将来について考えると回答 2:70%~80%未満の児童が将来について考えると回答 1:70%未満の児童が将来について考えると回答	2	○将来について考える機会を設けることができていない。 ○保護者会では保護者同士が交流できる場を設けた。 ○生活指導に関わる分野での関係機関との連携を充実させたい。 ○PTA主催の行事や地域主催の防災訓練に参加できた。 ○学校・保護者・地域がスクラムを組んでの指導と見守りを充実させたい。	○保護者が学校で児童と関わる機会が減っている。 ○様々な年齢の人々と関わる機会をPTAとして協力したい。 ○学校の運営状況(学校だより等)を地域の回覧等で周知するのはどうか ○小学校段階で進路を考えるのは難しいが機会を与えたい。基盤を築きたい。	B	○キャリア教育で地域人材を活用した取組を充実させたい。 ○保護者会や個人面談を通して児童の成長を具体的に伝え、共有する。 ○交通安全や不審者対応、体験など、警察や消防などと協力した取組がさらにできるようにしたい。 ○今後のPTAや地域の行事には積極的に参加・協力する。

学校教育目標	○ 助け合う子 ◎ 考える子【重点目標】 ○ きたえる子	【目指す学校像】	○児童が、「学びの実感」「協働意識」「心と体の元気」を感じる学校 ○児童が、自己決定しながら「なりたい自分」を目指す学校
		【目指す児童・生徒像】	○学が楽しさを知り、自己調整しながら学ぶ子ども ○自他を大切にし、しなやかに、共に伸びようとする子ども ○心と体に関心をもち、たくましく生きようとする子ども ○「なりたい自分」を目指し、自己決定ができる子ども
		【目指す教師像】	○温かな教育をする教師 ○子どもを信じ、子どもの思いを大切にせる教師 ○共成小の教育に貢献する教師 ○マネジメントできる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	児童が主体的に学ぶ学習者中心の授業改善により、「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を図る。	児童の自己調整しながら学びを進める力の向上	・見通し・実行・振り返り ・児童に委ねる覚悟 ・学び方の指導 ・導入の工夫	4 全教員が具体的方策を意識して指導した。	3	4 90%以上の児童が学んだことをすずんで振り返っている	3	自己調整し、学習の見通しをもって取り組もうとする姿は評価できるが、学びを調整していく在り方には個人差が見られる。	B	見通しをもたせる指導を継続するとともに、進め方や資料・他者との関わり方を自ら選択・調整できるよう支援や段階的な手立てを工夫していく。	
			3 80%～100%未満の教員が具体的方策を意識して指導した。	3 80～90%の児童が学んだことをすずんで振り返っている							
			2 70%～80%の教員が具体的方策を意識して指導した。	2 70～80%の児童が学んだことをすずんで振り返っている							
豊かな心	児童が自尊感情をもち、「安心基地(安心な環境)」の中で、自他を大切にしながら協働できる学校を創る。	「自己選択・自己決定」で児童の学習意欲向上	・自己決定の成功体験 ・自己選択の場の設定 ・自分に合った目標設定 ・自主・自由学習への挑戦	4 全教員が具体的方策を意識して指導した。	3	4 90%以上の児童が自分で決めて学習すると楽しいと回答	3	協働的な学習を通して、他者との関わりの中で自らの学びを自覚し、深めようとする姿が育ってきている。一方で、学びの深まりにつながらない場合もあり、さらなる工夫が求められる。	B	選択する場面において、選択の理由や意図を明確にする機会を設けることで、選択が学びの深まりにつながるよう指導の工夫を図っていく。	
			3 80%～100%未満の教員が具体的方策を意識して指導した。	3 80～90%の児童が自分で決めて学習すると楽しいと回答							
			2 70%～80%の教員が具体的方策を意識して指導した。	2 70～80%の児童が自分で決めて学習すると楽しいと回答							
豊かな心	児童が自尊感情をもち、「安心基地(安心な環境)」の中で、自他を大切にしながら協働できる学校を創る。	「協働的な学び」の充実で学びの自覚へ	・多様な他者とのかかわり ・共有する場の設定 ・学び合いの場の設定 ・自覚する時間	4 全教員が具体的方策を意識して指導した。	2	4 90%以上の児童が友達と一緒に学習すると楽しいと回答	4	学習を「やりっぱなし」にせず、自分の学びとして捉える力が育っている点は大きな成果である。しかし、2割の教員が日々の振り返りを十分に行っていないと自覚しており、学びを言語化する力には課題が残る。	A	振り返りの時間や方法を工夫し、学習の成果や課題を言語化する場を意図的に設定することで、内省を通して次の学びにつながる力の育成を図っていく。	
			3 80%～100%未満の教員が具体的方策を意識して指導した。	3 80～90%の児童が友達と一緒に学習すると楽しいと回答							
			2 70%～80%の教員が具体的方策を意識して指導した。	2 70～80%の児童が友達と一緒に学習すると楽しいと回答							
豊かな心	児童が自尊感情をもち、「安心基地(安心な環境)」の中で、自他を大切にしながら協働できる学校を創る。	全ての児童にとっての「安心基地・居場所」づくり	・SOSの出し方指導 ・いじめの防止・早期解決 ・相談しやすい環境 ・個別の配慮・支援	4 全教員が具体的方策を意識して指導した。	3	4 90%以上の児童が学校で安心して生活できていると回答	3	全体的な割合は80%程度の取組だったが、「SOSの出し方指導」では70%に達していなかった。心のアンケート以外にもSOSの出し方が必要である。SOSカードもあるが、お守り程度で実際に相談を受けたとはあまり聞かえていない。	B	先生への信頼感が伝わってくる。極少数の児童が「SOS」の活用を早い時期に見抜ける力が先生方にあるとよい。トラブルや不安なことが生じたときに、安心して相談できる支援の体制の充実を進めてほしい。	
			3 80%～100%未満の教員が具体的方策を意識して指導した。	3 80～90%の児童が学校で安心して生活できていると回答							
			2 70%～80%の教員が具体的方策を意識して指導した。	2 70～80%の児童が学校で安心して生活できていると回答							
豊かな心	児童が自尊感情をもち、「安心基地(安心な環境)」の中で、自他を大切にしながら協働できる学校を創る。	互いに認め合い、自他を尊重する人権感覚の醸成 「心の太陽」を輝かせる	・友達の良いところ探し ・感謝を伝える関係作り ・道徳授業の質の向上 ・優しい言葉の浸透	4 全教員が具体的方策を意識して指導した。	2	4 90%以上の児童が自分もほかの人も大切にしている	4	全体的な割合は75%程度の取組だったが、「道徳授業の質の向上」では50%に達していなかった。道徳授業による人権感覚の醸成には向上の余地がある。	A	人権教室を行って、子供たちの中に道徳の意識がしっかりと育っていることが確認できる。一定の評価は、認めるが、重要な項目なのでさらに充実した指導により評価向上を期待する。	
			3 80%～100%未満の教員が具体的方策を意識して指導した。	3 80～90%の児童が自分もほかの人も大切にしている							
			2 70%～80%の教員が具体的方策を意識して指導した。	2 70～80%の児童が自分もほかの人も大切にしている							
豊かな心	児童が自尊感情をもち、「安心基地(安心な環境)」の中で、自他を大切にしながら協働できる学校を創る。	他者とながら、協働する喜びの実感	・挨拶・アイコンタクト ・児童間交流の充実 ・児童会活動の充実 ・多様な他者との関わり	4 全教員が具体的方策を意識して指導した。	2	4 90%以上の児童がみんなと一緒に活動することが楽しいと回答	4	全体的な割合は70%の取組だったが、「児童会活動の充実」では40%程度だった。児童会活動についての理解が不十分で結果が低く出ているように思える。学級活動による他者とのつながり、協働する喜びの実感が少ない。挨拶は100%と全職員が指導し、児童の挨拶の実態も向上している。	A	挨拶について全教員で指導され、子供たちの実践が向上している点は、大変心強きと感じる。縦割り活動が広がる。協力し合う喜びの実感を得ていると感じる。友達と活動することが楽しいと思える子供が多いことはとてもよい。	
			3 80%～100%未満の教員が具体的方策を意識して指導した。	3 80～90%の児童がみんなと一緒に活動することが楽しいと回答							
			2 70%～80%の教員が具体的方策を意識して指導した。	2 70～80%の児童がみんなと一緒に活動することが楽しいと回答							
健やかな体	児童が自分の「心と体の元気」を感じながら、体力向上と心身の健康について考え、実践する態度を育む。	運動する楽しさの実感と日常的な運動遊びの充実と体育授業改善	・外遊びの充実 ・体育授業の内容充実 ・元気アップガイドブック活用 ・児童主催の取組	4 全教員が具体的方策を意識して指導した。	2	4 90%以上の児童が体を動かして運動することは楽しいと回答	3	元気アップガイドブックを活用した取組や児童主催の取組が低いが、外で遊ぶことや体を動かすことが好きな児童は一定数いる。	B	体力を高めるために児童が自主的に取組を増やすのは有効的と思う。子供たちの「やってみよう」という気持ちを生かしながら主体的な取り組みがさらに広がっていくことを期待する。	
			3 80%～100%未満の教員が具体的方策を意識して指導した。	3 80～90%の児童が体を動かして運動することは楽しいと回答							
			2 70%～80%の教員が具体的方策を意識して指導した。	2 70～80%の児童が体を動かして運動することは楽しいと回答							
健やかな体	児童が自分の「心と体の元気」を感じながら、体力向上と心身の健康について考え、実践する態度を育む。	望ましい生活習慣と健康な体をつくるための実践的態度の育成。	・家庭と連携したGM60分 ・食育教育の充実 ・安全指導の充実 ・児童の危険回避能力向上	4 全教員が具体的方策を意識して指導した。	2	4 90%以上の児童が健康に生活できるよう掛けている	2	「家庭と連携したGM60分」や「食育教育」を意識して指導をした教員が少なく、児童の約25%が基本的な習慣が身に付いていないと答へ、1学期より低下している。季節的な関係もあるが行事が多くなり疲れがあることも考えられる。	B	早起きが苦手な子供が多く感じる。学校と家庭が引き続き連携しながら無理のない形で子供たちの生活リズムを整えていければと思う。	
			3 80%～100%未満の教員が具体的方策を意識して指導した。	3 80～90%の児童が健康に生活できるよう掛けている							
			2 70%～80%の教員が具体的方策を意識して指導した。	2 70～80%の児童が健康に生活できるよう掛けている							
健やかな体	児童が自分の「心と体の元気」を感じながら、体力向上と心身の健康について考え、実践する態度を育む。	自分の良さの自覚と自尊感情の向上	・ハピネス・マインドの浸透 ・心のもち方指導 ・前向きな言葉かけ ・自尊感情の向上	4 全教員が具体的方策を意識して指導した。	3	4 90%以上の児童が自分には良いところがあると思う	2	ハピネスマインドの浸透を意識した指導や前向きな言葉かけを意識して指導している教員が多いが、児童のアンケート結果では自己肯定感は低い傾向にある。	B	過程と頑張りを評価して質の高い前向きな言葉を引き出す改善策はよいと思う。しかし、児童の自己肯定感の低さが気になる。先生方の言葉かけのやり方を見直し、工夫していただきたい。	
			3 80%～100%未満の教員が具体的方策を意識して指導した。	3 80～90%の児童が自分には良いところがあると思う							
			2 70%～80%の教員が具体的方策を意識して指導した。	2 70～80%の児童が自分には良いところがあると思う							
輝く未来	認め合いのある温かな集団の中で、児童が自己の良さを実感し、「なりたい自分」を目指す学校を創る。	児童が主体性に学校や学級をよりよくしようとする力の育成	・一人一人の活躍の場 ・学級会活動の充実 ・主体性を発揮できる行事 ・共成会議、実行委員	4 全教員が具体的方策を意識して指導した。	2	4 90%以上の児童が学校や学級のために役に立っている	3	教員の85%が一人一人の活躍の場を意識して指導をしていると答えているが「役に立っている」「まあまあ役に立っている」と答えた児童の総数が微減している。時数削減により学級会の充実を図る時間が減っていることも原因かと思われる。	B	一人一人の活動の場を意識して促していることが分かる。限られた時間の中でも学級会などを通して、子供たちが「役に立っている」と感じられる機会が大切にされることとよい。	
			3 80%～100%未満の教員が具体的方策を意識して指導した。	3 80～90%の児童が学校や学級のために役に立っている							
			2 70%～80%の教員が具体的方策を意識して指導した。	2 70～80%の児童が学校や学級のために役に立っている							
輝く未来	認め合いのある温かな集団の中で、児童が自己の良さを実感し、「なりたい自分」を目指す学校を創る。	温かく、共感的な人間関係に支えられた望ましい学級集団づくり	・ルールや規律の徹底 ・挑戦できる学級風土 ・QU結果の効果的活用 ・SGE、SST、PAの活用	4 全教員が具体的方策を意識して指導した。	3	4 90%以上の児童がクラスは楽しく、居心地が良い	4	教員の95%が、ルールや規律の徹底を意識し、66%が挑戦できる学級風土の構築に力を入れた。その結果、「クラスは楽しい。」「まあ楽しいと思う。」という児童が、1～4学年は9割に達した。高学年は微減しているが、年齢的に生じる人間関係の要因も考えられる。	A	クラスの生徒たちが安心して顔をしているので、こちらも何かホッとすることがある。反面、クラスを楽しく思わない少数の児童の理由が明確になるとよいと感じた。	
			3 80%～100%未満の教員が具体的方策を意識して指導した。	3 80～90%の児童がクラスは楽しく、居心地が良い							
			2 70%～80%の教員が具体的方策を意識して指導した。	2 70～80%の児童がクラスは楽しく、居心地が良い							
輝く未来	認め合いのある温かな集団の中で、児童が自己の良さを実感し、「なりたい自分」を目指す学校を創る。	ポジティブマインドでチャレンジしようとする意欲の向上	・キャリアアルバムの活用 ・自己選択の場の設定 ・成功体験の積み上げ ・チャレンジできる環境整備	4 全教員が具体的方策を意識して指導した。	2	4 90%以上の児童がポジティブマインドで生活できている	4	教員が、成功体験の積み上げを意識して指導した結果、ポジティブマインドで生活できている児童が、1～4学年はほぼ横ばいで88%、高学年は、約4%増え、93%となった。	A	はっきりと元よく挨拶できる子供が多く明るい学校の雰囲気を感じる。成功体験を大切に指導の成果が高学年での前向きな姿勢の向上につながっていることを心強く感じる。	
			3 80%～100%未満の教員が具体的方策を意識して指導した。	3 80～90%の児童がポジティブマインドで生活できている							
			2 70%～80%の教員が具体的方策を意識して指導した。	2 70～80%の児童がポジティブマインドで生活できている							

学校教育目標	○ よく考える子ども ○ けんこうな子ども ○ すすんで働く子ども ◎ 思いやりのある子ども	【目指す学校像】	職員が組織的に協働して、児童が主体的に活動し、生涯学習の基礎を確実に身に付け、家庭・地域の信託に応える学校
		【目指す児童・生徒像】	未来の創り手として、自ら考え、創造力・表現力に富み、互いを尊重し人の為に尽くす、心身共に健康で活力に満ちた子供
		【目指す教師像】	児童・保護者・地域の願いを受け止め、熱い心と志を持ち、変革に臆することなく、使命と役割を遂行し、結果に責任を持つ教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	自律的に学びに向かい、創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く子の育成	主体的に学びに向かう力の涵養とともに、学習習慣の確立	「学びのすすめ」「自主学習ノート」「寺子屋」の推進等、授業と家庭学習との連携強化	4 寺子屋…実施回数90%以上 3 寺子屋…実施回数80%以上 2 寺子屋…実施回数70%以上 1 寺子屋…実施回数70%未満	4	4 学年×10分の家庭学習…90%以上 3 学年×10分の家庭学習…80%以上 2 学年×10分の家庭学習…70%以上 1 学年×10分の家庭学習…70%未満	3	○推進プラン改善充実 ▲自主学習の推進	学習習慣は、学校だけでは補えない部分もあり、家庭と連携し、学校、家庭、地域で幅広く取り組むことが望ましい。	B	【自主学習ノート】と「学びのすすめ」の核とし、学習習慣を定着させる。【寺子屋】の指導内容・方法を個別最適、家庭との連携強化。
		生きて働く基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得	UDやICT、授業スタイルやノートの統一、板書や発問の工夫等、効果的な学習指導	4 教科でのICT活用…90%以上の授業 3 教科でのICT活用…80%以上の授業 2 教科でのICT活用…70%以上の授業 1 教科でのICT活用…70%未満の授業	4	4 診断シート平均正答率…70%以上 3 診断シート平均正答率…60%未満 2 診断シート平均正答率…50%未満 1 診断シート平均正答率…40%以上	4	○個別最適な学び ○板書構成の工夫改善	授業では、本時のめあて、既習事項を生かす、振り返りなど、基礎学力の定着を図っている。予習や復習も大切である。	A	【学年・教科担任制】の充実により、授業の質を向上させる。ICTやUDを活用した【分かりやすい授業スタイル】で効果的に指導する。
		未知の課題に納得解を導き、新たな価値を創造する力の育成	「探究ノート」を活用した課題解決等、自ら考え判断し表現する学習と深い学びの重視	4 探究ノートの活用…年20回以上 3 探究ノートの活用…年10回以上 2 探究ノートの活用…年5回以上 1 探究ノートの活用…年5回未満	3	4 主体的に課題解決…90%以上 3 主体的に課題解決…80%以上 2 主体的に課題解決…70%以上 1 主体的に課題解決…70%未満	4	○主体的な学びの充実 ▲新たな価値の創造	新たな価値とは何か、もっと具体性がないと、新しい社会の変化とともに、イメージがつかないのではと感じる。	B	【ふじみ探究の目】を核に、探究的な学習を一層深めていく。生活科と探究のカリキュラムを改善し、【6年間で系統的に育成】する。
豊かな心	認知機能を高め、自分も他の人も尊重し、敬意をもって大切にできる心豊かな子の育成	個性を生かし、相互の信頼関係を深め、自己有用感の醸成	「h-QU」の結果を生かした児童集会や縦割り班活動等、異年齢集団の活動の推進	4 異学年活動…実施率90%以上 3 異学年活動…実施率80%以上 2 異学年活動…実施率70%以上 1 異学年活動…実施率70%未満	4	4 社会通念上のいじめ…0~5件 3 社会通念上のいじめ…6~15件 2 社会通念上のいじめ…16~30件 1 社会通念上のいじめ…31件以上	4	○穏やかな学校生活 ○自己有用感が向上	個性を生かした授業を行っている。子供に自分の存在が大事だと思わせている。今後も個々が輝ける機会の提供を期待。	A	ふれあい月間の「命の授業」、WebQUなど豊かな関係性を醸成。【挨拶】【靴の踵を揃える】など家庭とともに凡事徹底を継続する。
		認知機能を高め、自己共に敬意をもって関係する力の育成	「コグトレ」や学級活動の工夫による認知機能や感情統制、やり抜く力等の重視	4 コグトレ…実施率90%以上 3 コグトレ…実施率80%以上 2 コグトレ…実施率70%以上 1 コグトレ…実施率70%未満	4	4 認知機能の向上…90%以上の児童 3 認知機能の向上…90%以上の児童 2 認知機能の向上…70%以上の児童 1 認知機能の向上…70%未満の児童	3	○自他を認め合う意識 ▲コグトレの系統性	子供も大人も、様々な認知の違いがあることを知ることから始まり、より良い人間関係を作るきっかけとなっていると思う。	B	認知-感情統制-対人スキル等、社会性を【コグトレ】で育成する。【異年齢の縦割り班活動】【交流及び共同学習】を一層充実させる。
		自他を大切にし、よく生きる、内面に根ざした道徳性の涵養	問題解決的あるいは体験を通じた発問構成の工夫、広い視野で考え議論する道徳	4 考え議論する道徳…実施率90%以上 3 考え議論する道徳…実施率80%以上 2 考え議論する道徳…実施率70%以上 1 考え議論する道徳…実施率70%未満	3	4 自分事として考える…80%以上の児童 3 自分事として考える…70%以上の児童 2 自分事として考える…60%以上の児童 1 自分事として考える…60%未満の児童	4	▲議論する道徳の工夫 ○思いやりの心が醸成	道徳の授業や日常生活において、思いやりの気持ち、善悪の判断を指導する教職員の一貫した関りが求められると思う。	B	【考え議論する道徳】の授業展開、【人権集会】で豊かな心を育成する。【朝読】【短作文】などの取り組みで、1日を心穏やかにスタートす
健やかな体	基本的な生活習慣を身に付け、運動に親しみ、心身共に健康で活力に満ちた子の育成	新しい生活様式と、健康教育・食育推進を改善、充実、徹底させる。	「グッドモーニング60分」等、新しい生活様式の定着と、食育の計画的な推進・充実	4 グッドモーニングの取組…90%以上の児童 3 グッドモーニングの取組…80%以上の児童 2 グッドモーニングの取組…70%以上の児童 1 グッドモーニングの取組…70%未満の児童	4	4 病欠児童…1日の平均0~3人 3 病欠児童…1日の平均4~7人 2 病欠児童…1日の平均8~11人 1 病欠児童…1日の平均12人以上	3	○生活習慣の定着 ▲スマホ依存増加傾向	食材にこだわり、郷土料理など、食に興味を持てる機会を与えている。低学年は、うがい手洗いの継続的な声掛けが必要。	B	【ノースマホデー】等、スマホやゲーム依存の対策、【給食課】【栄養士】と協働して、計画的な食育を推進する。
		基礎的な体力の向上と生涯に渡り運動に親しむ資質能力の向上	「元気アップがイブク」を活用した運動習慣につながる授業の工夫、家庭との連携協力	4 元気アップの取組…18項目以上 3 元気アップの取組…14項目以上 2 元気アップの取組…10項目以上 1 元気アップの取組…10項目未満	3	4 運動することが楽しい…90%以上の児童 3 運動することが楽しい…80%以上の児童 2 運動することが楽しい…70%以上の児童 1 運動することが楽しい…70%未満の児童	3	▲運動習慣の改善 ▲元気UP活用充実	元気アップを取り入れたり、児童が参加しやすい取り組みが行われているが、運動が苦手な児童への配慮や支動かす時間を確保。	A	元気アップタイムを活用した「元気アップタイム」を拡大・充実。休み時間の【外遊び】【学級レク】を推奨、体を動かす時間を確保。
		居場所づくりや心に寄り添う相談など、悩みを抱えない相談体制	スマイルの活用その他、全学年で「SOSカード」を活用した多様な対処方法を推進	4 学級外の児童支援…90%以上の教員 3 学級外の児童支援…80%以上の教員 2 学級外の児童支援…70%以上の教員 1 学級外の児童支援…70%以上の未済	4	4 大人に相談できる…90%以上の児童 3 大人に相談できる…80%以上の児童 2 大人に相談できる…70%以上の児童 1 大人に相談できる…70%未満の児童	4	○ストレスゼロ学校生活 ○ふじみスマイル効果	先生たちがきめ細かく指導をしてくれていて、子供たちの相談に乗ってくれている。安心した学校生活を送れている。	A	【学年担任制】等、すべての子供にとって学校が安心できる場所とする。【SOSカード】の活用で、いつでも相談できる雰囲気醸成。
輝く未来	未知の課題を思索し、新たな価値観や行動を生み出し、協働して未来を創造する子の育成	言語能力とともに、未知の課題に向き合い思索する力の育成	学校図書館に学習・情報センター機能をもたせ、全教育課程で言語活動を充実	4 図書館機能を活用…全学級月4回以上 3 図書館機能を活用…全学級月3回 2 図書館機能を活用…全学級月2回 1 図書館機能を活用…全学級月1回以下	4	4 言語能力向上…80%以上の児童 3 言語能力向上…70%以上の児童 2 言語能力向上…60%以上の児童 1 言語能力向上…60%未満の児童	4	○図書館の活用充実 ○語り合い活動の充実	言葉の教育の大切さを校長先生が掲げ、全校でそれが統一されて活動を行っている。短作文や読書感想文の指導がよい。	A	【短作文】【読書感想文】【調べ学習】【読書感想文】のつながりを重視する。思考力を核としつつ、【語り合い】の時間と内容を一層充実。
		情報活用能力とともに、新たな解を創造する力の醸成	1人1台の端末やオンラインの活用など、見方・考え方を働かせながら思索する場の充実	4 タブレットの活用…全学級週10回以上 3 タブレットの活用…全学級週6~9回 2 タブレットの活用…全学級週3~5回 1 タブレットの活用…全学級週3回未満	3	4 論理的思考力向上…80%以上の児童 3 論理的思考力向上…70%以上の児童 2 論理的思考力向上…60%以上の児童 1 論理的思考力向上…60%未満の児童	4	○探究ノートの活用 ○探究学習の深化	ICTを活用して授業でも効果的な使い方が見られる。インターネットルールについては、確認、徹底が必要だと思う。	A	【MISHプログラミング】を活用してプログラミング的思考を深める。本校の6年間の【情報活用能力指導計画】に基づき、着実に育成。
		教科横断的に6年間を見通した教育課程全体を往還させる。	調べ学習コンクール参加等、家庭や地域と連携・協働した自己実現への手立ての充実	4 全教科で課題解決学習…100%の学級 3 全教科で課題解決学習…90%以上の学級 2 全教科で課題解決学習…80%以上の学級 1 全教科で課題解決学習…80%未満の学級	4	4 主体的に探究…80%以上の児童 3 主体的に探究…70%以上の児童 2 主体的に探究…60%以上の児童 1 主体的に探究…60%未満の児童	4	○縦割り班活動の充実 ○各種賞の上位入賞	子供たちは課題追求するとともに、新たな課題に出会っても、また取り組む姿勢を見せていた。さらなる充実を期待したい。	A	【未知の課題に対峙する力】を育成する機会を意図的に設定していく。6年間の【探究力】を系統的・計画的に積み上げていく。

学校教育目標	〇しっかり考える子(問題解決力) 〇心やさしい子(人間関係形成力) 〇つよく元気な子(体力・活力)	【目指す学校像】	〇児童にとって充実した学校 〇保護者にとって信頼できる学校 〇教職員にとって働きがいのある学校
		【目指す児童・生徒像】	〇思考力・判断力・表現力を身に付けた子ども〇感性あふれる豊かな心をもつ子ども 〇すすんで心と体を鍛えることができる子ども
		【目指す教師像】	〇ありのままの児童を受け止め、個性を發揮させる教師 〇授業で勝負できる教師 〇家庭・地域との相互理解を深め協働のできる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	〇基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに主体的・対話的で深い学びによる授業改善を目指す。	〇よく見て、よく聞き、よく考える力を培い、思考力・判断力・表現力を身に付けた子供の育成。	〇日々の定期テストや学力テストを実施し、年度始めと年度末のその結果や変化を分析する。	4 全教員がアンケートを実施した。 3 80%～100%未満の教員がアンケートを実施した。 2 70%～80%未満の教員がアンケートを実施した。 1 70%未満の教員がアンケートを実施した。	4	4 アンケート調査で70%以上の児童が肯定的な回答をしている。 3 アンケート調査で70%未満～60%の児童が肯定的な回答をしている。 2 アンケート調査で60%未満～50%の児童が肯定的な回答をしている。 1 アンケート調査で50%未満の児童が肯定的な回答をしている。	3	各教科の基礎基本の定着に向けた授業改善及び教育課程の見直しを行い、子供たちの学習環境を整えることに加え、校内研究の成果と課題を見直し、主体的に学習に取り組めるよう授業改善に努める。	基礎・基本の部分だと思ふ。時代や環境と共に思考や判断の基準が変わってくると思いますが、様々な方法で子ども達に伝えてもらいたい。また高学年の先生方の努力はすぐ感じる。来年度も全校での成長を期待したい。	B	今年度の学力テストの結果を各学年分析し、成果と課題を共有する。そして学校全体の成果を把握し、次年度の校内研究の内容や主題につなげるとともに、主体的に学びに向かう児童の育成を目指した授業改善につなげていきたい。
		〇ICTを活用した授業を充実させ、児童の「情報活用能力」の育成を図る。	〇各学年で昭島市から示されている「子供たちに身に付けさせたいICT操作能力」を把握し、資質能力の育成を目指す。	4 全教員がアンケートを実施した。 3 80%～100%未満の教員がアンケートを実施した。 2 70%～80%未満の教員がアンケートを実施した。 1 70%未満の教員がアンケートを実施した。	4	4 90%以上の児童がタブレットを活用している。 3 80%～90%未満の児童がタブレットを活用している。 2 70%～80%未満の児童がタブレットを活用している。 1 70%未満の児童がタブレットを活用している。	3	各学年の指導の中で教科の特性や児童の実態に合わせて、ICTを活用した学びが実践できている。教師の得意不得意によってICTの活用状況が違ふ現状が見られた。	武蔵野小学校、もしくは昭島市で一度ICTのための外部講師を検討してみてもどうか。また、ICTのさらなる活用能力を高められるよう指導してほしい。	B	市が示している「子供たちに身に付けさせたICT操作能力」と具体的な活用例を年度初めに全教員に周知し、各学期末に活用状況を把握する。また、教員向けのICT研修を実施し、どの教員も抵抗感なく実践できるように努める。
		〇読書活動の推進と言語能力の育成に向け、学校司書及びボランティアが連携し、子供たちの読書活動の一層の推進を図る。	〇学校司書が中心となり、ボランティアや委員会の活動等で連携を図り、子供たちの読書活動の一層の推進を図る。	4 各学級で図書室を月4回以上使用した。 3 各学級で図書室を月3回以上使用した。 2 各学級で図書室を月2回以上使用した。 1 各学級で図書室を月1回以下使用した。	3	4 90%以上の児童が2週に1度以上図書室を利用している。 3 80%～90%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。 2 70%～80%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。 1 70%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。	3	各学級毎週1時間図書室の時間を設定しているが、高学年では毎週の実施が難しい。学期ごとの読書時間では低学年を中心に図書室の利用者数や図書の出借数を増やす取組を行っている。	次年度も活字に触れ合う時間を続けてほしい。そのための読書活動をこれからも大切にしてほしい。	B	中学生以上の読書量の確保のためにも、今後も読書旬間の企画を通じて読書活動を推進する。また、教員も企画に参加することで、読書イベントへの関心を高め、学校全体で読書を推進できるようにする。
豊かな心	〇相手の気持ちを想像し、人との関わりを大切にできる豊かな心を育成する。	〇児童の自己肯定感を高め、常に相手のことを考え行動することができるようにする。	〇学級の実態に応じた指導し、HQU調査を年2回実施し、結果を分析する。	4 全教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 3 80%～100%の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 2 70%～80%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 1 70%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。	4	4 90%以上の児童が自己肯定感があると感じている。 3 80%以上の児童が自己肯定感があると感じている。 2 60%以上の児童が自己肯定感があると感じている。 1 自己肯定感があると感じている児童が60%未満だった。	2	各学年のアンケート結果から児童の実態をつかみ、改善策を見出し、教員同士で各学年の実態を共有する場を定期的に設けている。また、子供の課題や悩みに応じて個別に面談を開いたり、保護者と情報共有している。	他者理解と共に、自分理解につなげてほしい。また、学校だけではなく、家庭での役割や小さなことでもやり切った達成感の積み重ねを大切にほしい。また、児童の悩みを全教員で共有し、対応してほしい。	B	復休中の個人面談の共通伝達事項として、学級満足度調査の実施結果を設定する。また、保護者と連携し、児童一人一人の課題改善に対応できるよう個人面談や保護者会、お便り等の連携体制を整え、学校と家庭とで積極的に協力を図る。
		〇道徳科を道徳教育の要の時間と位置付け、教科横断的な視点で各教科にて、計画的・発展的に行うようにする。	〇教科横断的な視点で、年間指導計画に位置付け、計画的に指導し、道徳教育の一層の充実を図る。	4 すべての教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った。 3 70%～100%の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った。 2 40%～70%の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った。 1 40%未満の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った。	4	4 95%以上の児童が振り返りを書くことが出来た。 3 85%以上の児童が振り返りを書くことが出来た。 2 80%以上の児童が振り返りを書くことが出来た。 1 振り返りを書くことが出来た児童が80%以下だった。	4	道徳年間指導計画をもとに、各教科と関連させながら、全学級で週に1時間計画的に、道徳の授業を実施している。道徳授業地区公開講座前日、方向性を確認する時間をもち、意識向上を図った。	学校教育の中だけでなく、家庭内の会話や地域や習い事などを通して、多角的・多面的に高めていくべきかと思う。引き続き教育活動を進めていただき、家庭や地域が連携してほしい。	A	日々の道徳授業の中で、自分や周りの人を大切に思う気持ち、気持ちの良い人との関わり方について考えたり、振り返ったりする機会をもち、自己肯定感を高め児童の豊かな心を育成する。
		〇いじめを許さない心情を育て、いじめの早期発見解決に努める。	〇年3回の学校生活アンケートからみんながよりよく生活できるようにするためのアンケート項目を設定し、実施する。	4 全教員が学級活動計画を活用した指導を行った。 3 80%～100%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。 2 70%～80%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。	4	4 学校生活アンケート調査の関連項目から90%以上 3 学校生活アンケート調査の関連項目から70%以上 2 学校生活アンケート調査の関連項目から50%以上 1 学校生活アンケート調査の関連項目から30%以上	4	学級生活満足度の割合が全国平均43%に対して85%で大きく上回っていた。それに伴い、いじめの発件数は約80%減少したことは大きな成果と考える。今後も早期発見・早期対応、さらに子どもたち一人一人の人権感覚の高まりを促す指導を継続していく。	社会の変化の中で、いじめの内容も変化してくると思うため、今後も継続して子供たちが安心して生活できるご指導をお願いしたい。	A	次年度も、年間3回の学校生活アンケートを実施。また、全教員が、いじめの定義を踏まえた上で、児童観察を常に行っており、重篤ないじめにつながらないように早期発見・早期解決を徹底できるように、全教員に対していじめに関する研修を年3回実施していく。
健やかな体	〇自分の心と体の健康に関心をもち、基礎的な体力と心身の育成と向上を図る。	〇児童体力・運動能力、生活運動習慣の向上に向け、運動の習慣化を図り、体力の向上を推進する。	〇体力向上プロジェクトや短なわや長なわの取組を実施し、運動することの楽しさやよさを味わわせる。	4 全教員が計画を活用した指導を行った。 3 80%～100%未満の教員が計画を活用した指導を行った。 2 70%～80%未満の教員が計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が計画を活用した指導を行った。	4	4 調査結果が昨年比平均ポイントから+2ポイント以上 3 調査結果が昨年比～+2ポイント 2 調査結果が昨年比-2ポイント以内 1 調査結果が昨年比-2ポイント以下	3	運動委員会の児童を中心に休み時間を利用して体力テストの練習会を実施。3種目は全国平均値を少し上回った。3種目で全国平均値を下回った。その要因は、その種目に関連した運動動作の経験不足と遊具使用機会減少が考えられる。	家庭でも運動する機会は減少していると思う。宿題の中に体操やストレッチを入れて、家庭学習としても、おもしろいかわしれませんが、その種目に関連した運動動作の経験不足と遊具使用機会減少が考えられる。	A	長縄や短縄の取組で全校で行ったことで苦手な児童も参加できた。次年度もまずは運動委員の意欲向上を図りながら、体力テストの練習ブースを設けたい。体プロ第2種として①立ち幅跳び②ボール投げ③握力のいずれかに特化した遊びを考案し、楽しく活動したい。
		〇規則正しい生活と健康・安全に留意できる児童の姿を目指す。	〇毎学期実施する「すまいるカード」の取組の結果を集計し、その結果を集計・分析し、日々の指導改善に努める。	4 全教員が計画的な指導を実施した。 3 80%～100%未満の教員が計画的に指導した。 2 70%～80%未満の教員が計画的に指導した。 1 70%未満の教員が計画的に指導した。	4	4 90%以上の児童が目標を達成している。 3 80%～90%未満の児童が目標を達成している。 2 70%～80%未満の児童が目標を達成している。 1 70%未満の児童が目標を達成している。	3	年3回のすまいるカードに全校で取り組んだ。実態を把握し、職員に課題を共有し、生活習慣の大切さとともに、グッドモーニング60分で朝食を食べることの大切さを各学級で指導した。保護者にも取り組みの結果を知らせ啓発した。	自分の体の状態を表にして記録することができると感じた。今後も自分の健康や身体に興味をもちたい。また、保護者・児童・教員が連携してほしい。	A	生活習慣や健康の大切さについて考えたり、振り返るためにすまいるカードを効果的に活用する。また、次年度は1学期だけでなく、2・3学期も委員会活動で児童主体で健康作りに取り組み、全校的な取り組みとなるようにしたい。
		〇食に関する望ましい食習慣の形成を促進する。	〇学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせる。	4 全教員が食育計画を活用した指導を行った。 3 80%～100%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。 2 70%～80%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。	4	4 90%以上の児童が食育のめあてを達成している。 3 80%～90%未満の児童が食育のめあてを達成している。 2 70%～80%未満の児童が食育のめあてを達成している。 1 70%未満の児童が食育のめあてを達成している。	3	年3回のお弁当の日、食の大切さを考えるため、全児童にワークシートを配布し、めあてを決めて、振り返りをするために活用した。児童がワークシートを活用し、食べることの大切さについて考える機会を作ることができた。	食事について向き合う機会があつて良いと感じた。お弁当の日に限らず、他の機会でも可能なところで食と身体と健康とを伝えていきたい。	B	今年度は、給食委員会の活動として、給食マナー向上週間として、食育の取り組みを行った。お弁当の日と合わせて、日常の給食と食育を関連させた取り組みを実施していけるとよい。
輝く未来	〇子どもたちが自立できる基礎を培う。また、日本の伝統・文化の良さを理解し郷土を愛する態度を育成する。	〇幼保・小中が連携し、児童が安心して進級・進学できるようにする。	〇幼保小中連携教育の推進を図るとともに、学年始めに「キャリアアルバム」を作成し、目標をもって生活を送れるようにする。	4 全教員が方策を実施した。 3 80%～100%未満の教員が方策を実施した。 2 70%～80%未満の教員が方策を実施した。 1 70%未満の教員が方策を実施した。	4	4 90%以上の児童が安心して進級・進学できる。 3 80%～90%未満の児童が安心して進級・進学できる。 2 70%～80%未満の児童が安心して進級・進学できる。 1 70%未満の児童が安心して進級・進学できる。	3	各学期の始めと終わり・行事ごとに必ず目標とその振り返りを行うことで、自己について考える時間の確保と行事に対する意欲に繋がっている。また、フィリングすることで積み重ねが可視化され成長を実感できた。	引き続き、自分の事に目を向ける振り返る方法として、キャリアアルバムの作成を続けてほしい。これからも自己の成長を振り返られるようにしていきたい。	B	今年度の引き続きを行い、来年度に繋げていくことで学年が変わっても児童がさらなる成長にむかっていることを考える。
		〇教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。	〇文化、スポーツ、高齢者、外国人、地域工場・店舗等での学びの場を各学年設定する。	4 全学年の教員が交流体験を実施した。 3 80%～100%未満の学年・教員が交流体験を実施した。 2 70%～80%未満の学年・教員が交流体験を実施した。 1 70%未満の学年・教員が交流体験を実施した。	4	4 90%以上の児童が目標を達成している。 3 80%～90%未満の児童が目標を達成している。 2 70%～80%未満の児童が目標を達成している。 1 70%未満の児童が目標を達成している。	4	人権擁護委員の方や助産師さんをお招きし、いのちの授業を実施。環境学習での出前授業を実施。2年生による自治会のシルバードールとの交流、幼稚園や保育園との交流会を実施。4年生はあらたに立川ダイス(バスケット)の選手による出前授業を実施。	ネットの普及により、文化、芸能、スポーツなどの話題は身近なものになってきた。実際の活動を見て感じられる機会をこれからも大切にしてほしい。	A	今年度に引き続き来年度も、児童の実態や地域の実態に応じて、出前授業や交流会を行ってほしい。また、年間指導計画にそったゲストティーチャーの授業を入れ込み、意図的計画的な指導計画のもと行ってほしい。
		〇家庭・地域の声を活かすとともに学校の教育活動を情報発信していく。	〇学校HPや学校たより等を通じて保護者や地域に向けて児童の活動等を発信したり、行事や学校公開の際にアンケートを取り、改善を図っていく。	4 各行事の実施を受け、毎月ホームページを更新した。 3 各行事の実施を受け、学期に3回ホームページを更新した。 2 各行事の実施を受け、学期に2回ホームページを更新した。 1 各行事の実施を受け、学期に1回ホームページを更新した。	4	4 80%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 3 50%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 2 20%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 1 20%未満の保護者が教育活動への理解を示している。	4	学校評価の意見を反映し、学校たよりや学年たより等を学びのプラットフォームに変更。保護者の実態や学校の実態を反映させた発信方法に変えることができた。また昨年度に引き続き、ホームページを逐一更新して、子供たちの教育活動を発信している。	広く武蔵野小学校の活動を伝える一つの手段として、続けてほしい。	A	今年度に引き続き、保護者や学校のニーズ、実態に合わせて、お便りの発信方法を見直ししていく。また、行事や学校公開での保護者・地域からのアンケートを紙面か、フォームかどちらの方が「より多くの意見を取り入れ反映していけるか今後検討が必要である。

学校教育目標	◎精いっぱい学習する子 ○人のためにつくす子 ○すすんで体をきたえる子	【目指す学校像】	○最大限 子供の健やかな学びを保証する学校
		【目指す児童・生徒像】	○自らの人生を自らの力で切り拓き、持続可能な社会の創造を担う人材 ～Think Globally.Act locally.～
		【目指す教師像】	○認め合い・支え合い・高め合うチームである教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	「分かること・できることが楽しい」 基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、思考力、判断力、表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養う。	主体的・対話的で深い学びを実現する授業を工夫し、自らすすんで学習に取り組む児童を育成する。	授業づくりの基本の20項目をまとめた「玉小授業力スタンダード」に基づき、授業改善を行う。	4 「玉小授業力スタンダード」を20項目の5割を達成した教員が60%以上	3	4 授業で1日に1回以上手を挙げている児童が70%以上	2	玉小授業力スタンダードの5割達成が50%以上になっているが今後6割、7割達成ができるように授業改善に取り組んでいく。手を挙げる児童の割合は発達段階に応じて差があるため、学年や実態に応じて発言をしやすい環境や活動ができるように授業の工夫をしていく。	「授業が分かりやすい」に対する肯定的評価は91%と多い。しかし、挙手の割合が低い。安心感のある学級づくりと発言しやすくする具体的な工夫に取り組むと良い。	B	挙手の割合については発達段階によって難しい学年もある。安心感のある学級づくりはもちろんのこと、ペア学習やグループ学習などを積極的に取り入れ発言する機会を多く与えられるように授業方法の重点化を周知していく。
				3 「玉小授業力スタンダード」を20項目中5割を達成した教員が50%以上		3 授業で1日に1回以上手を挙げている児童が50%以上					
2 「玉小授業力スタンダード」を20項目中5割を達成した教員が40%以上	2 授業で1日に1回以上手を挙げている児童が30%以上										
1 「玉小授業力スタンダード」を20項目中5割を達成した教員が40%未満	1 授業で1日に1回以上手を挙げている児童が30%未満										
		インクルーシブ教育の推進とユニバーサルデザインに基づいた教室経営を図る。	昭島ユニバーサルデザインに基づく教室環境を整備し、落ち着いた学習を受けられる環境をつくる。	4 教室環境を整備した教員が80%以上	3	4 先生の書く黒板が分かりやすい児童が70%以上	3	学期の節目ごとに職員間で声を掛け合い、定期的に教室の環境整備をした。児童が板書に集中できるように、教室前方の掲示物を厳選した。教室内は物の保管場所を明確にすることで、児童が落ち着いて過ごせるようにした。	黒板もモニターもどちらもよく見えるように、文字の大きさや色に工夫が必要。教室後方が座席の児童までよく見えるようにする。タブレットの活用も進める。	B	児童に整理整頓の習慣を身に付けさせ、日常的に机やブックボックス等を定期的に整理整頓させる。朝学習時に机の中に教科書等を準備させる。教室に時間割を掲示し、1日の見通しをもたせる。
3 教室環境を整備した教員が70%以上	3 先生の書く黒板が分かりやすい児童が60%以上										
2 教室環境を整備した教員が60%以上	2 先生の書く黒板が分かりやすい児童が50%以上										
1 教室環境を整備した教員が60%未満	1 先生の書く黒板が分かりやすい児童が50%未満										
豊かな心	「みんなと仲良くできて楽しい」 道徳教育の充実を図り、人権尊重の精神を醸成し、共に認め高め合い、学校は楽しいと実感できる児童の育成を目指す。	道徳的諸価値について、「価値・人間・他者」理解を深め、自己の生き方を見つめ直す道徳科授業の充実を図る。	互いを認め合う道徳授業を行い、思いやりの心をもって行動できる児童を育成する。	4 道徳諸価値を意識して道徳科授業を行っている教員が80%以上	4	4 学級の誰とでも協力して活動ができる児童が70%以上	4	教員は道徳的諸価値を理解し、授業を行うことができている。また、道徳地区公開講座を行うことにより親切、思いやりの価値を中心とした授業を公開することで地域や保護者にも考えてもらえる機会となった。	道徳教育については一定以上の評価が出ている。自己と他者が共に成長できる環境を作っていくようにする。	A	道徳教育全体計画に則って取り組んでいく中で、道徳的諸価値を理解し、授業を行っている。道徳授業地区公開講座等を通して、地域や家庭にも意識啓発を図っていく。
				3 道徳諸価値を意識して道徳科授業を行っている教員が70%以上		3 学級の誰とでも協力して活動ができる児童が50%以上					
2 道徳諸価値を意識して道徳科授業を行っている教員が60%以上	2 学級の誰とでも協力して活動ができる児童が30%以上										
1 道徳諸価値を意識して道徳科授業を行っている教員が60%未満	1 学級の誰とでも協力して活動ができる児童が30%未満										
		チーム玉小でアセスメントを丁寧に行い、いじめ・不登校・自殺等の未然防止、早期解決を図る。	SOSカードを活用し、児童と教職員がコミュニケーションを深め、安心して登校できる環境をつくる。	4 SOSカードを児童に作成させた教員が80%以上	4	4 自分や友達のをよさを認めてくれる学級と答えた児童が80%以上	4	SOSカードの活用は概ね定着し、教職員による丁寧なアセスメントや情報共有につながった。児童が学級を肯定的に捉える傾向も見られた。今後は、日常的な関わりと結び付け、いじめの未然防止と早期対応を進めていく必要がある。	SOSカードの活用が効果的であり、安心して学校で生活している児童が多い。自他共に認め合える児童の多い学級が増えることを望む。	A	SOSカードを活用し、日常的な関わりと結び付けたアセスメントと情報共有を充実させる。また、コミュニケーションタイムを通して児童同士や教職員との関係を深め、安心して過ごせる学級づくりといじめの未然防止を進めていく。
3 SOSカードを児童に作成させた教員が70%以上	3 自分や友達のをよさを認めてくれる学級と答えた児童が60%以上										
2 SOSカードを児童に作成させた教員が60%以上	2 自分や友達のをよさを認めてくれる学級と答えた児童が40%以上										
1 SOSカードを児童に作成させた教員が60%未満	1 自分や友達のをよさを認めてくれる学級と答えた児童が40%未満										
健やかな体	「心も体も弾んで楽しい」 からがだ計画的に体力向上を推進し、心身ともに健康な児童の育成を目指す。	心身ともに健康で、自己管理のできるたくましい児童の育成を目指す。	「グッドモーニング60分」の活用において、「見通し」と「振り返り」を行う。	4 活用で「見通し」と「振り返り」を行った教員が80%以上	4	4 「グッドモーニング60分」を意識して生活している児童が70%以上	2	学期始めに行っている「グッドモーニング60分」を通して、児童が自分自身の生活習慣を振り返るきっかけとなっている。今後は継続して行い、より生活習慣へとつなげていけるようにする。	「グッドモーニング60分」は、効果があるようだ。一日の学校生活を児童一人ひとりが計画して、良い一日にすることができるように指導していってほしい。放課後の学習時間や読書時間の少なさを、ゲームやタブレットの長時間使用が気になる。	B	「グッドモーニング60分」を活用し、児童自身が生活習慣を見直しをもって計画・振り返ることができるようにする。学習時間や読書時間、メディア使用の在り方について課題が見られることから、アウトメディアチャレンジ等の取組を通して、よりよい生活習慣の形成につなげていく。
				3 活用で「見通し」と「振り返り」を行った教員が60%以上		3 「グッドモーニング60分」を意識して生活している児童が60%以上					
2 活用で「見通し」と「振り返り」を行った教員が40%以上	2 「グッドモーニング60分」を意識して生活している児童が50%以上										
1 活用で「見通し」と「振り返り」を行った教員が40%未満	1 「グッドモーニング60分」を意識して生活している児童が50%未満										
		授業・休み時間を効果的に活用し、自ら楽しみながら体力向上を図る児童を育成する。	教職員も休み時間に校庭に出て、外遊びを児童と共にし、共に遊び、模範を示す。	4 中休みに校庭で児童と活動した教員が70%以上	1	4 晴れた日には外遊びをしている児童が70%以上	4	特別講師を招聘し、楽しく体を動かすリズムの要素を取り入れたリズムダンスの授業を各学級8時間も2、3学期に設定することができた。また、企画活動も児童中心に行うことができた。今後もブラッシュアップしながら取り組んでいく。	保護者は、児童の体力向上に満足していない。休み時間に教員も外に出る、体力向上旬間等の取り組みをしっかりと保護者にも伝えて、満足感を感じさせる工夫が必要。	B	年間を通して体力向上旬間を行っているが、運動する楽しさを実感できたり、運動する習慣がつくように休み時間には教員が外で児童と共に遊んでいく。また、研修等で運動量の確保など体育の授業の質の向上を図る。
3 中休みに校庭で児童と活動した教員が60%以上	3 晴れた日には外遊びをしている児童が60%以上										
2 中休みに校庭で児童と活動した教員が50%以上	2 晴れた日には外遊びをしている児童が50%以上										
1 中休みに校庭で児童と活動した教員が50%未満	1 晴れた日には外遊びをしている児童が50%未満										
輝く未来	「みんなの役に立てて楽しい」 自己有用感を感じる機会を通して、自分には良いところがあると感じる子供を育成するとともに、キャリア教育を推進し、社会貢献力の育成を図る。	「昭島市民科」として、生活科・総合的な学習の時間の年間計画を立て、地域社会に貢献できる児童を育成する。	地域人材を活用した授業を行い、地域と学校が共にWin-winの関係をつくる。	4 地域人材を活用した授業を行った教員が80%以上	2	4 自分は地域の役に立っていると回答した児童が70%以上	1	教員の地域人材を活用した意識は低い、すべての学年で総合的な学習の時間や社会の力活用事業によって100%実現できている。さらに児童が自分が地域に役立つことができたと思える単元・授業設定や外部人材とのやり取りの機会を増やしていく。	教員が自身の力だけでなく、地域人材の活用を通して、より充実した授業を作り上げていくことが大事。	C	来年度も研究課題を総合的な学習の時間に設定し、各単元で地域人材を活用することを研究内容に盛り込んでいく。
				3 地域人材を活用した授業を行った教員が60%以上		3 自分は地域の役に立っていると回答した児童が60%以上					
2 地域人材を活用した授業を行った教員が40%以上	2 自分は地域の役に立っていると回答した児童が50%以上										
1 地域人材を活用した授業を行った教員が40%未満	1 自分は地域の役に立っていると回答した児童が50%未満										
		児童が主体的に取り組む活動を意図的・計画的に行い、主権者としての意識を高める。	児童会・委員会・学級活動の充実を図り、主体的態度・学校を創造する態度を育成する。	4 児童が主体的に取り組む活動を行った教員が70%以上	3	4 学校や学級のために係や委員会に取り組んでいる児童が70%以上	4	児童に主体的に学校を創っていくという意識が高くなってきた。児童会や中央委員会を設置したことによる効果が高いと思われる。さらに児童の自己有用感を高めるため、児童が主体的に取り組める環境を整備していき、教師が整備していく。	児童が学級、学校を自分たちで作っていくという積極的な行動をより推進していき、児童会などを充実させ、児童発信の企画をつくり、学校行事にも児童主体の企画を創造していく。	B	引き続き児童会活動を軸にしなが、児童が主体的に取り組める環境を整備する。児童集会などを充実させ、児童発信の企画をつくり、学校行事にも児童主体の企画を創造していく。
3 児童が主体的に取り組む活動を行った教員が60%以上	3 学校や学級のために係や委員会に取り組んでいる児童が60%以上										
2 児童が主体的に取り組む活動を行った教員が50%以上	2 学校や学級のために係や委員会に取り組んでいる児童が50%以上										
1 児童が主体的に取り組む活動を行った教員が40%未満	1 学校や学級のために係や委員会に取り組んでいる児童が50%未満										

学校教育目標	◎よく考える子(すすんで学び考え、あきらめずに問題に取り組む子供) ◎心豊かな子(やさしい心で、自分も他人も大切にすること) ◎たくましい子(すすんで体を鍛え、粘りよく行動する子供)	【目指す学校像】	○全ての子どもたちの良さ・可能性を伸ばし、自己肯定感を育てる学校
		【目指す児童・生徒像】	○自己肯定感をもって自己発揮でき、自分や他人の良さが分かり、大切にできる子供
		【目指す教師像】	○様々な教育課題に適切に対応し、経営参画意識をもって職層に応じた役割を果たしながらチーム力を高めることができる教師集団

領域	中期経営目標(3年間)	短期経営目標(1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策			
確かな学力	学力向上との関連を図った探究的な学びの充実を図る。	日常の授業の充実を図るため、基礎的な知識・技能の習得を図る授業の在り方を追求する。	自分の苦手分野を知り、解決や克服の努力をすることで学びを深めるようにする。	4 全教科・領域で実施する。 3 90%以上の教科・領域で実施する。 2 80%以上の教科・領域で実施する。 1 実施した教科・領域が80%未満である。	3	4 全学年の90%以上が実施できた。 3 全学年の80%以上で実施できた。 2 全学年の70%以上で実施できた。 1 全学年の70%未満しか実施できなかった。	3	「活用」に関しては、共通理解が図られてきたが、基礎的な知識・技能の習得に根差す必要があった。	基礎的な知識・技能の習得の更なる継続と学習意欲の向上を図る取組を深めていただきたい。	A	基礎的な知識・技能の習得のプロセスを研究し、共通理解を図る。			
		生活科・総合的な学習の時間及び各教科において問題解決学習を行い、学力向上を図る。	児童が「是非、解決してみたい。」と感ずる実践を展開する。	4 生活科・総合的な学習の時間以外に、2教科以上で実践する。 3 生活科・総合的な学習の時間以外に、1教科で実践する。 2 生活科・総合的な学習の時間のみで実践する。 1 問題解決的な学習が実践できなかった。		4		4 授業にすすんで参加できたと思える児童が80%以上 3 授業にすすんで参加できたと思える児童が70%以上 2 授業にすすんで参加できたと思える児童が60%以上 1 授業にすすんで参加できたと思える児童が60%未満	3		問題解決型の学習を目指して研究が行われてきたが、児童が「是非、解決してみたい。」と感ずる課題になり切れていなかった。	昨年度の研究発表を生かした取組を継続し、児童が追究意欲を感じる課題づくりを行っていただきたい。	B	デジタルを活用したこれからの学びにつなげるためにも、児童が追究意欲をもてる課題づくりを行っていく。
		協働的な学びを推進するため、児童が意欲的に取り組む授業実践を行う。	学んだことを生かした対話・アウトプットを豊かに取り入れ、個々の知識・技能を活用できるようにする。	4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 8学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。				3			4 安心して学校に通えていると感ずる児童が80%以上 3 安心して学校に通えていると感ずる児童が70%以上 2 安心して学校に通えていると感ずる児童が60%以上 1 安心して学校に通えていると感ずる児童が60%以上	3		児童自身が習得した知識・技能を使って思考を深める過程をより丁寧に取組むべきであった。
豊かな心	児童の自尊感情・自己肯定感の更なる向上を図り、積極的に社会に関わる人材を育成する。	人権尊重の精神に基づき、いじめのない学級、いじめがなく毎日安心して登校できる学校づくりを行う。	様々な個性が認められる学級づくり、気持ちの良い挨拶や言葉掛けを互いに行い、安心感のある学校を児童とともにつくる。	4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。	3		4 すすんで活動に取り組んだと思える児童が90%以上 3 すすんで活動に取り組んだと思える児童が80%以上 2 すすんで活動に取り組んだと思える児童が70%以上 1 すすんで活動に取り組んだと思える児童が70%未満			3	特にふれあい月間での諸調査のフィードバックの在り方に課題があった。			挨拶は大人が率先して行うことも大切である。また、具体的な児童の変容も学校側で見逃さず捉えていただきたい。
		偏見と差別を許さず、多様性を認め合う人権教育を推進する。	道徳教育や各教科との関連を図りながら人権教育を進める。	4 全学級が道徳科や教科と関連させた人権教育を実践している。 3 12学級以上が道徳科と関連させた人権教育を実践している。 2 道徳科や教科と関連させた人権教育を行っている学級がある。 1 道徳科や教科と関連させた人権教育を行っている学級10学級以下である。		4	4 人権感覚が高まったと思える児童が90%以上 3 人権感覚が高まったと思える児童が80%以上 2 人権感覚が高まったと思える児童が70%以上 1 人権感覚が高まったと思える児童が70%未満		3		計画的に研修、人権標語の取組が行えた。学年の系統性を考慮した実践をすべきである。		多様性を認め合うために、学校として何が必要かを具体的に示したものがほしい。	B
		思いやりをもち人やものこととの関わりを豊かにする教育を推進する。	言語活動の充実、読書指導の充実を図り、自己肯定感の醸成と豊かな心を生み出す風土を築く。	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が10学級未満である。			3	4 すすんで活動に取り組んだと思える児童が90%以上 3 すすんで活動に取り組んだと思える児童が80%以上 2 すすんで活動に取り組んだと思える児童が70%以上 1 すすんで活動に取り組んだと思える児童が70%未満			3	何のための読書指導の充実か、そのために具体的にどんな指導が必要かの検証が必要である。	読書指導の他にも、対人関係で育まれる言語活動の充実を大切に実践していただきたい。	
健やかな体	総合的な体力向上と日常的な健康教育の重視を図りながら、心身ともに健康な子どもを育てる教育	総合的な体力向上と日常的な健康教育の充実を図る。	授業や体育的行事を充実させ、目標をもって自己の体力を向上させる児童を育成する。	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が10学級未満である。	3			4 「よく体を動かしている。」児童が80%以上 3 「よく体を動かしている。」児童が70%以上 2 「よく体を動かしている。」児童が60%以上 1 「よく体を動かしている。」児童が60%未満		3		体育科の授業の充実については、改善の道半ばである。	身体をコントロールすることは、心をコントロールすることにつながる。日々の体力づくり、健康づくりへの意識を高めていただきたい。	
		自分の身は自分で守り、困難を乗り越えたくましい心を育む。	体力向上の取組の中で自己の体力を知り、めあてをもって努力する気持ちや危険を回避する能力を養う。	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が10学級未満である。		4		4 困難を乗り越えたと思える児童が90%以上 3 困難を乗り越えたと思える児童が80%以上 2 困難を乗り越えたと思える児童が70%以上 1 困難を乗り越えたと思える児童が70%未満	3			朝会時の行進指導、体育朝会の工夫など、教員側の努力が進んできている。	学びは自ら生み出すものである。体力向上の目的を児童が理解する働き掛けをしていただきたい。	B
		心身ともに健康な子どもの育成を図る。	体幹を意識した運動や食育指導の取組を通して心身の健康を保つ大切さを理解し、すすんで取り組む。	4 全学級が取組を行っている。 3 11学級以上が取組を行っている。 2 9学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。			3	4 すすんで取り組む児童・家庭が90%以上 3 すすんで取り組む児童・家庭が80%以上 2 すすんで取り組む児童・家庭が70%以上 1 すすんで取り組む児童・家庭が70%未満			3	毎朝の体幹トレーニングを年間を通して継続して行うことができた。	体幹を意識した運動・食育指導を継続して行っていただきたい。	
輝く未来	世界に目を向け、正解のない問題に立ち向かう力を育成する。	郷土昭島に対する愛着や誇りをもち、積極的に良さを発信する子供を育成する。	地域の素材や人材の活用、伝統文化、自然との関わりから昭島の良さを捉え、積極的に発信できるようにする。	4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。	4			4 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が90%以上 3 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が80%以上 2 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が70%以上 1 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が70%未満		4		校内研究を中心として、地域の素材や人材を活用した実践を行うことができた。	60周年記念誌には、学習材としての価値を感じた。地域人材とのつながりを継続して進めていただきたい。	
		未知の事柄や学習に対して自分なりに見通しやめあてをもって取り組んでいける能力を育む。	自分が設定した課題に対して見通しをもって解決し、保護者や地域に発信することができる。	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が10学級未満である。		3		4 学んだことを保護者や地域に発信できたと思える児童が90%以上 3 学んだことを保護者や地域に発信できたと思える児童が80%以上 2 学んだことを保護者や地域に発信できたと思える児童が70%以上 1 学んだことを保護者や地域に発信できたと思える児童が70%未満	3			特に授業における情報交換や話し合いでは、他人の意見を聞く一方の児童が散見された。	児童が具体的な目標をもって取り組めるような教育活動を行っていただきたい。	B
		地域や保護者の願いを教育活動に取り入れ、「地域とともにある学校づくり」を推進する。	多様化するニーズに応えながら教育活動を進め、地域社会構築への参画を図る児童を育成する。	4 全学級が参画を考えさせている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 参画を考えさせた学級が10学級未満である。			4	4 実践意欲を抱いた児童が90%以上 3 実践意欲を抱いた児童が80%以上 2 実践意欲を抱いた児童が70%以上 1 実践意欲を抱いた児童が70%未満			4	盆踊りに関わる実践を中心として、地域の願いを教育活動に取り入れ、保護者に発信することができた。	盆踊りの実践は貴重な一歩である。主体性をもち、地域社会構築につながるような取組を充実させていただきたい。	

学校教育目標	だれもが笑顔になる学校	ビジョン	【目指す学校像】	○楽しい学びの共同体
			【目指す児童・生徒像】	○自ら学び、表現する子 ○認め合い、協力して行動する子 ○すすんで体を整える子
			【目指す教師像】	○当事者意識をもって学校づくりを行う教師 ○組織で考え、組織で動くことができる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策	
確かな学力	児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら行う、主体的・対話的な学びの実現	教員一人一人が課題意識をもって主体的に取り組む校内研究(特別活動)を充実させ、授業力の向上を図る。	主体的な授業改善を図るために、学期ごとに行う授業観察で1回以上特別活動を実施し、お互いに観察し合う。	4	90%以上の教員が授業と公開に取り組んだ。	4	4	児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が95%以上	4	授業づくりに対する教員の意識の深化が見られた。その成果は児童アンケートにも表れている。授業内容についての肯定的評価は98%に達し、日常の授業改善が児童の学びの実感につながっていることがうかがえる。	A	「分かった」「できた」と実感できる児童が増えるよう、取り残される児童が減るような指導を望む。
				3	85%以上の教員が授業と公開に取り組んだ。		3	児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が90%以上				
				2	80%以上の教員が授業と公開に取り組んだ。		2	児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が85%以上				
				1	80%未満の教員が授業と公開に取り組んだ。		1	児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が85%未満				
		学ぶことの楽しさを実感させる授業を積み重ね、主体的、対話的で深い学びによる学力向上を推進する。	GIGA端末やICTを利用した授業スタイルを確立し、児童自身に課題意識をもたせて対話的な学びを進める。個別最適な学習を展開していく。	4	8割以上の授業でICTを活用するなど、児童主体の個別最適な学習を実施した。	3	4	児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が90%以上肯定的	3	一人1台端末の活用は定着し、児童が学習の目的や自身の特性に応じてツールを選択しながら学ぶ姿が見られるようになってきた。一方で、端末の経年劣化(特にバッテリー)といったハード面の課題は依然として大きく、今後も計画的な対応が求められる。	B	ICTを学習に取り入れる前と後で、どのような成果が表れているのか見極めも必要である。
				3	7割以上の授業でICTを活用するなど、児童主体の個別最適な学習を実施した。		3	児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が80%以上肯定的				
				2	6割以上の授業でICTを活用するなど、児童主体の個別最適な学習を実施した。		2	児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が70%以上肯定的				
				1	5割以上の授業でICTを活用するなど、児童主体の個別最適な学習を実施した。		1	児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が30%以上否定的				
		児童の学力を把握し、実態に即した授業改善を行うことで、学力の向上を図る。	授業改善推進プランを活用したり、単元ごとの3観点評価を計画的に行ったりすることで、指導と評価の一体化を意識した授業を実践する。	4	90%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。	4	4	児童アンケート「授業に対して、すすんで取り組んでいる」が90%以上	4	児童の学習状況や実態を踏まえた授業改善を計画的に進めることができた。こうした取組が、授業内容の理解や学びの定着につながっており、学校全体の授業改善の質をさらに高めていく必要がある。	A	低学年のうちから家庭学習が身につくよう指導していくことを望む。
				3	85%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。		3	児童アンケート「授業に対して、すすんで取り組んでいる」が80%以上				
				2	80%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。		2	児童アンケート「授業に対して、すすんで取り組んでいる」が70%以上				
				1	70%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。		1	児童アンケート「授業に対して、すすんで取り組んでいる」が70%未満				
豊かな心	自分と共に他者を大切にできる態度や、社会の一員であるという自覚と規範意識の育成	自発的に挨拶をする態度を養い、挨拶が自然に通い合う学級、学校をつくる。	年度内の学校生活目標に3度ほど挨拶を取り上げたり、児童会を中心とした挨拶運動に取り組ませたりして、挨拶指導の強化を図る。	4	全教職員が日常的に指導した。	4	4	児童アンケート「自分や友達を大切にしていますか。」が90%以上	4	教職員も日常的に挨拶についての指導を実施し、児童会でも挨拶運動や挨拶スタンプなど、児童主体の活動ができた。その結果、「自分や友達を大切にしている」の項目で96.5%の児童が肯定的な評価につながったと考える。	A	見守り活動の地域の方々に対する挨拶がよくできている。
				3	90%以上の教員が日常的に指導した。		3	児童アンケート「自分や友達を大切にしていますか。」が85%以上				
				2	80%以上の教員が日常的に指導した。		2	児童アンケート「自分や友達を大切にしていますか。」が80%以上				
				1	80%未満の教員が日常的に指導した。		1	児童アンケート「自分や友達を大切にしていますか。」が80%未満				
		組織的な道徳教育の推進により、児童一人一人が自らを振り返ることで、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。	道徳教育の全体計画や年間指導計画を見直し、道徳推進教師を中心に、道徳科の授業改善と道徳授業地区公開講座の実施を計画する。	4	90%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。	4	4	児童アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」が95%以上	4	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の項目において、96.5%の児童が肯定的な評価だった。これは、教員の道徳教育の推進と児童一人ひとりが自分事としてとらえて道徳的な判断力、心情を育み実践してきたことが結果につながったと考える。	A	「人と仲良くすることが大切だ」ということを伝え続けてほしい。
				3	85%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。		3	児童アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」が90%以上				
				2	80%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。		2	児童アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」が85%以上				
				1	80%未満の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。		1	児童アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」が85%未満				
		心の安全を保障する指導体制を確立し、児童一人一人が安心して、過ごすことができる学校にする。	人権教育プログラムやいじめ総合計画に基づいた組織的な取組により、月に1回以上いじめ対策委員会を開く。また、年に3回以上「いじめに関する授業」を実施する。	4	全教員が3回以上「いじめに関する授業を行った。」	4	4	児童アンケート「学校で落ち着いて安心して生活できていますか。」が90%以上	4	「学校で落ち着いて安心して生活できていますか。」の項目において、90%の児童が肯定的な評価をしている。この結果からも9割の児童が安心して学校生活を過ごすことができていることが分かった。	A	保健室等、教室以外でも学校内に安心できる場所があることはとても意味がある。
				3	90%が3回以上「いじめに関する授業を行った。」		3	児童アンケート「学校で落ち着いて安心して生活できていますか。」が85%以上				
				2	80%が3回以上「いじめに関する授業を行った。」		2	児童アンケート「学校で落ち着いて安心して生活できていますか。」が80%以上				
				1	80%未満が3回以上「いじめに関する授業を行った。」		1	児童アンケート「学校で落ち着いて安心して生活できていますか。」が80%未満				
健やかな体	自ら体を整え、健全な生活を築こうとする児童の育成	児童の実態に基づいた体力の課題を分析し、全校的取組により体力向上を目指す。	昨年度の体力調査の結果分析から、筋持久力と走力、敏捷性に課題があることが分かった。敏捷性の向上をテーマにし、元氣アップガイドブックの運動内容を参考にして、元氣アップタイムを実施する。	4	全校児童が参加した。	3	4	体力テストの結果で4学年以上が敏捷性で市平均以上	3	走力、敏捷性については、学校平均が都平均、全国平均を上回った。持久走については、男子は都平均、全国平均を上回ったものの女子は、どちらも下回っている。また、立ち幅跳びは、都平均、全国平均を下回っているため、跳の運動を積極的に取り入れていく必要がある。	B	持久走や縄跳び等、できる活動を継続して取り組んでほしい。
				3	90%以上の児童が参加した。		3	体力テストの結果で3学年以上が敏捷性で市平均以上				
				2	80%以上の児童が参加した。		2	体力テストの結果で2学年以上が敏捷性で市平均以上				
				1	70%以上の児童が参加した。		1	体力テストの結果で2学年未満が敏捷性で市平均以上				
		基本的な生活習慣を定着させ、児童の健康意識の向上と日常的な行動を促す。	元氣アップガイドブックや保健便り、給食便りを活用して生活リズムカード(グッドモーニング60)に取り組む、児童が自身の生活の振り返りを行う。	4	全学級で記録と振り返りを行った。	4	4	児童アンケート「これまでの自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う」95%以上	3	生活リズムカードを年に3回実施し、児童と保護者が生活の振り返りを行う機会をつくった。実施するだけで終わってしまうことが多いので、改善についても考えること、規則正しい生活を継続するように伝えていくことが課題である。	A	学校として生活リズムを整えるよう働きかけはできていると思う。
				3	90%以上の学級で記録と振り返りを行った。		3	児童アンケート「これまでの自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う」90%以上				
				2	80%以上の学級で記録と振り返りを行った。		2	児童アンケート「これまでの自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う」85%以上				
				1	70%以上の学級で記録と振り返りを行った。		1	児童アンケート「これまでの自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う」85%未満				
		児童の危険予知能力を育成し、危険を回避する能力を向上させる。	安全教育プログラム等を活用した安全指導を日常的に行う。また、事前に十分指導した上で、予告なしの避難訓練を毎月実施する。	4	全教員が日常的に指導を行った。	4	4	児童アンケート「安全や健康についての知しきを生活の中で生かしている」が90%以上	3	毎月予告なしの避難訓練や安全指導を行っている。避難の仕方は身に付いてきているものの、慣れからくる危機意識の低下も見られる。	A	毎月の避難訓練がしっかりと実施されており、十分評価できる。
				3	90%以上の教員が日常的に指導した。		3	児童アンケート「安全や健康についての知しきを生活の中で生かしている」が85%以上				
				2	80%以上の教員が日常的に指導した。		2	児童アンケート「安全や健康についての知しきを生活の中で生かしている」が80%以上				
				1	80%未満の教員が日常的に指導した。		1	児童アンケート「安全や健康についての知しきを生活の中で生かしている」が80%未満				
輝く未来	人間関係調整力と自己有用感をもち、積極的に他者と関わろうとする児童の育成	様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら自己実現を図ったり、より良い人間関係を形成したりできるようにする。	児童が自主的に活動できるように、「特別活動 大人の10の流儀」を意識し、学級会を軸とした話し合い活動を充実させる。	4	全教員が話し合い活動を充実させた。	4	4	児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が95%以上	3	各学級で、学級会に取り組み、学年やブロックの教員間で授業参観している。参観し合うことで、学級会が抱えている個々の課題を改善する取組を行った。	A	学級会の積み重ねにより自分の意見をもてる、伝えられる児童が増えた。
				3	90%以上の教員が話し合い活動を充実させた。		3	児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が90%以上				
				2	80%以上の教員が話し合い活動を充実させた。		2	児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が80%以上				
				1	70%以上の教員が話し合い活動を充実させた。		1	児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が80%未満				
		児童と教職員とが知恵を出し、工夫した学校行事を生み出し、児童に達成感や連帯感、自己有用感をもたせる。	児童会や実行委員会活動を活性化し、児童が主体的に取り組めるスポーツ及びステージフェスティバルの計画を立て、実施する。	4	90%以上の児童が楽しく参加した。	3	4	児童アンケート「行事の満足度」が90%以上	4	たてわり班活動について教員間で話し合い、各学期のめあてを立てたり、遊びの感想を伝え合ったりしてきたことで、異学年での交流機会が増え、互いに認め合える関係性が築けている。	A	6年生が主体となり、たてわり活動がうまくいっている。
				3	80%以上の児童が楽しく参加した。		3	児童アンケート「行事の満足度」が80%以上				
				2	70%以上の児童が楽しく参加した。		2	児童アンケート「行事の満足度」が70%以上				
				1	60%以上の児童が楽しく参加した。		1	児童アンケート「行事の満足度」が60%未満				
		体験的な学習を意図的に計画し、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えさせる。	ゲストティーチャーや出前授業等、人と関わる体験的活動を計画的に実施する。また、コミュニティスクールの利点を生かし、地域の学習材を各学年で活用する。	4	全学年が体験的活動を実施した。	3	4	児童アンケート「学校の授業は分かりやすい」が98%以上	4	前年度に作成した地域活用人材をもとに、単元計画に合わせて、外部人材を活用した特別授業を実施している。	A	出前授業を通して、様々な職業や活動に興味をもたせている。
				3	5つの学年が体験的活動を実施した。		3	児童アンケート「学校の授業は分かりやすい」が95%以上				
				2	4つの学年が体験的活動を実施した。		2	児童アンケート「学校の授業は分かりやすい」が90%以上				
				1	3つの学年が体験的活動を実施した。		1	児童アンケート「学校の授業は分かりやすい」が90%未満				

学校教育目標	◎すすんでする子 ○健康な子 ○考える子 ○協力する子	【目指す学校像】	子供一人一人の『幸せ(ウェルビーイング)』を具現化する学校+教職員一人一人の『働きがい』を具現化する学校
		【目指す児童・生徒像】	どの共同体でも力を発揮できる子(2030/2040年の日本を生きる子供たちへ) cfエージェンシー(社会を変革する力)の育成
		【目指す教師像】	子供の幸せを念頭に、教育者としての熱意とスキルを併せ持つ教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策	
確かな学力	主体的な学びの推進を通して、児童・教師が「光華遊学」の成果を実感する	対話力の向上	①対話を取り入れた授業づくり ②対話に必要な児童のスキル向上	4:2項目に取り組み成果を上げた	3	4:90%以上の児童が話合って学ぶことは楽しいと回答	4	児童肯定群91%。対話的な学びの重視がこの結果につながっている。	対話力の向上は人間関係関係にも影響大きい。路上で大きな挨拶してくれる児童あり。今後も推進を期待する。	A	引き続きホワイトボードや思考ツールの活用を含め、対話力を学力の土台として重点化する。	
				3:2項目に取り組むことができた		3:80%以上の児童が話合って学ぶことは楽しいと回答						
				2:1項目に取り組むことができた		2:70%以上の児童が話合って学ぶことは楽しいと回答						
		問題解決型学習の推進	①新しい学びの推進 ②ファシリテーションを意識した授業づくり	4:2項目に取り組み成果を上げた	3	4:90%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答	4	児童肯定群92%。自由進度型学習はじめ、一方通行でない学びの効果と考える。	児童肯定群92%。自由進度型学習はじめ、一方通行でない学びの効果と考える。	教科横断的な学習、問題解決型学習を通し、児童の「面白そう」「やりたい」を実現する学習活動が補償されている。	B	次年度も教科横断型、自由進度型、プロジェクト型の3つの学びを軸に、児童の主体性を引き出す。
				3:2項目に取り組むことができた		3:80%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答						
				2:1項目に取り組むことができた		2:70%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答						
		教育DXの推進	①教師自身のスキル向上 ②児童の情報活用能力向上	4:2項目に取り組み成果を上げた	3	4:90%以上の児童がタブレットは役に立つと回答	4	90%以上の児童がタブレットは役に立つと回答	児童肯定群98%。教師自身の研修、ICT担当者の精力的な働きかけがタブレット活用の日常化につながっている。	指導者のスキル向上が先決ではないか。外部講師による教員研修が効果的。	A	タブレットの積極的活用とともに、ネットリテラシーにもさらに重点を置く。
				3:2項目に取り組むことができた		3:80%以上の児童がタブレットは役に立つと回答						
				2:1項目に取り組むことができた		2:70%以上の児童がタブレットは役に立つと回答						
豊かな心	多様な見方・考え方を受け入れたり、自ら楽しさ(ワクワク・ドキドキ)を見出す心のクセを身に付ける	多様性を認め合う心の醸成	①多様な意見や考え方を享受する機会の充実 ②意見や考えを出せる安心感の醸成	4:2項目に取り組み成果を上げた	4	4:90%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答	4	児童肯定群99%。多様な学びの過程で、必然的に肯定的なかかわりと安心感が生まれたものと考えられる。	遊びの中で子供たちの豊かさが育つ。積極的な外部連携が多様性の享受につながっているのではないかと考える。	A	引き続き多様性の相互承認を教育活動の土台に置く。	
				3:2項目に取り組むことができた		3:80%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答						
				2:1項目に取り組むことができた		2:70%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答						
		感性を豊かにする教育の充実	①感性や体験活動を重視した教育の充実 ②読書活動の充実	4:2項目に取り組み成果を上げた	3	4:90%以上の児童が「本や音楽や図工、自然が好きです」と回答	4	90%以上の児童が「本や音楽や図工、自然が好きです」と回答	児童肯定群92%。特に専科の尽力で芸術的体験の増加が成果につながったと考える。	理屈ではない感性の豊かさが重要。図書ボランティアの活用も充実。音楽会は見事だった。	A	引き続き児童の豊かな感性を磨く活動を重視、外部人材も積極的に活用する。
				3:2項目に取り組むことができた		3:80%以上の児童が「本や音楽や図工、自然が好きです」と回答						
				2:1項目に取り組むことができた		2:70%以上の児童が「本や音楽や図工、自然が好きです」と回答						
		特別支援教育の充実	①特別支援教育の充実(スキル活用、連携含む) ②児童への理解啓発	4:2項目に取り組み成果を上げた	4	4:90%以上の児童がいろいろな人がいてよい、と回答	4	90%以上の児童がいろいろな人がいてよい、と回答	児童肯定群99%。拠点校として特別支援教育の理解啓発が進んだ成果と考える。	自由進度など個別最適な学びが充実している。今後も、児童の特性をくみ取る指導の充実を期待したい。	A	今後も多様性の相互承認を基盤に、インクルーシブ教育を推進する。
				3:2項目に取り組むことができた		3:80%以上の児童がいろいろな人がいてよい、と回答						
				2:1項目に取り組むことができた		2:70%以上の児童がいろいろな人がいてよい、と回答						
健やかな体	自らの健康を保持・増進する生活習慣の定着	体を動かす喜びの実感(「遊び」の重視)	①体育の授業改善 ②元気アップタイムの推奨	4:2項目に取り組み成果を上げた	3	4:90%以上の児童が「学校で遊んだり体を動かしている」と回答	3	児童肯定群84%。体育的行事は充実したが、体育の授業改善が課題として残る。	「遊び」によって得られるものの具現化を望む。子供たちの元気な声が校庭から聞こえてくる。スポフェスを評価。	A	体育担当者の中でOJT担当を決め、定期的な体育授業研修をめざす。	
				3:2項目に取り組むことができた		3:80%以上の児童が「学校で遊んだり体を動かしている」と回答						
				2:1項目に取り組むことができた		2:70%以上の児童が「学校で遊んだり体を動かしている」と回答						
		生活習慣の改善	①GM60の推進 ②食育の推進	4:2項目に取り組み成果を上げた	3	4:90%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答	4	90%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答	児童肯定群90%。担当者の尽力で食育の全校指導が定期的実施された。	GM60など日常生活を見つめる指導を評価。	B	食育をテーマにした学習を推奨。GM60は家庭への啓発を充実させる。
				3:2項目に取り組むことができた		3:80%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答						
				2:1項目に取り組むことができた		2:70%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答						
		自他の「性・生命」の尊重	①いじめ防止の推進 ②命を大切にする教育(包括的性教育)の推進	4:2項目に取り組み成果を上げた	3	4:90%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答	4	90%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答	児童肯定群95%。SOS教育の日常化が安心感につながっていると考える。	清泉中学区での共通した取り組みを評価。児童の9割が安心して通学していることも評価できる。	A	いじめ防止の徹底と共に、いじめに遭った時の具体策も併せて重点化する。
				3:2項目に取り組むことができた		3:80%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答						
				2:1項目に取り組むことができた		2:70%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答						
輝く未来	agencyの獲得	「まず、やってみよう！」精神の浸透	①まずやってみよう！の形成 ②周囲に役立つ喜びの重視	4:2項目に取り組み成果を上げた	4	4:90%以上の児童が「やってみよう！を大切にしている」と回答	4	児童肯定群91%。まずやってみよう！精神は校内への浸透を感じる。	まず、やってみよう！の定着は自己肯定感にもつながると感じる。教師自身がまずやってみよう！を実践している。	A	「まず、やってみよう！」精神は今後も学校経営の中心におく。	
				3:2項目に取り組むことができた		3:80%以上の児童が「やってみよう！を大切にしている」と回答						
				2:1項目に取り組むことができた		2:70%以上の児童が「やってみよう！を大切にしている」と回答						
		他者や地域と「つながる」喜びの実感	①外部人材の活用 ②目的を明確にした各行事の充実	4:2項目に取り組み成果を上げた	3	4:90%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答	3	90%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答	児童肯定群88%。多くの学年が積極的に外部人材を活用した成果と考える。	地域連携を大切にしていることを十分発信している。地区委員会と児童の企画は大成功であった。	A	地域学校協働活動の推進を念頭に、地域人材の活用を積極的に進めていく。
				3:2項目に取り組むことができた		3:80%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答						
				2:1項目に取り組むことができた		2:70%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答						
		自己理解力の向上	①「心をとめる」指導の充実 ②学習の自己評価活動	4:2項目に取り組み成果を上げた	3	4:90%以上の児童が「心をとめることを大切にしている」と回答	4	90%以上の児童が「心をとめることを大切にしている」と回答	児童肯定群94%。心をとめる、は教員共通のキーワードとなっており、児童の中にも浸透している。	教職員が「心をとめる」意義を再確認し、学校全体の共通理解を推進してほしい。	B	「心をとめる」をキーワードに、他者の意見尊重の中で自己を見つめる機会を重視していく。
				3:2項目に取り組むことができた		3:80%以上の児童が「心をとめることを大切にしている」と回答						
				2:1項目に取り組むことができた		2:70%以上の児童が「心をとめることを大切にしている」と回答						

学校教育目標	○すすんで学ぶ子 ○心豊かな子 ○たくましい子	ビジョン	【目指す学校像】	人も自分も大切に、みんなが輝く成隣小
			【目指す児童・生徒像】	互いを認め合い協力し合いながら課題を解決し、児童一人一人が前向きに学校生活を送っている
			【目指す教師像】	自身の知識・技能の向上に努め、学校の実践力、「チーム成隣」としての組織力を向上させている

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	◎主体的に学習に取り組む児童を育成する。 ・児童による目標の設定と振り返りを重視し、基礎的な知識・技能を習得させる。 ・児童一人一人に注目し成長を支援する。 ・経験や体験を深める活動を重視する。	児童の学習に対する目的意識を大切にし、自身の学びを実感できる授業を実施する。	①学習のめあての提示 ②振り返りを実施 ③ICT機器の活用	4 全ての教員が、児童が主体的な授業を行った	4	4 児童アンケート「すすんで学習」9割以上	4	前向きに授業に取り組む児童が多く、指標が高く出ている。落ち着いているのが何よりの学びになっている。	A	学力の向上をより一層図るため、低学年算数少人数指導の導入や放課後補習教室の拡充を図る。	
				3 8割以上の教員が、児童が主体的な授業を行った		3 児童アンケート「すすんで学習」8割以上					
				2 7割の教員が、児童が主体的な授業を行った		2 児童アンケート「すすんで学習」7割以上					
		子供たちが経験や体験を深める活動を十分に設定する。	外部講師、地域人材を活用した授業を各学年、学期に2回以上実施する。	4 年間6回以上の外部講師、地域人材を活用した授業を行う	4	4 児童アンケート「授業が楽しい」9割以上	4	今年度の重点として各教員が積極的に取り組み、大きな成果を出すことができた。	A	楽しい授業は児童の意欲を引き出すことができている。引き続きの取組を期待したい。	次年度も引き続き取組を継続し、多様な教育機会を提供できるようにしていく。
				3 年間4回以上の外部講師、地域人材を活用した授業を行う		3 児童アンケート「授業が楽しい」8割以上					
				2 年間2回以上の外部講師、地域人材を活用した授業を行う		2 児童アンケート「授業が楽しい」7割以上					
		日常的な書く活動を通して思いを表す力を向上させる。	①年2回以上、書く活動の授業観察を実施 ②週一回、朝学習時に書く活動の実施	4 週一回、朝学習時に書く活動の実施9割以上	3	4 児童アンケートで「書くことが楽しい」が9割以上	4	児童アンケートでは数値が高く出たが、学校全体で徹底できていない部分がある。	A	今後も継続的な取組を期待したい。	土曜補習教室では作文指導を重点的に行うことができた。引き続き指導を継続する。
				3 週一回、朝学習時に書く活動の実施7割以上		3 児童アンケートで「書くことが楽しい」が7割以上					
				2 週一回、朝学習時に書く活動の実施5割以下		2 児童アンケートで「書くことが楽しい」が5割以上					
豊かな心	◎互いを認め、協力し合う児童の育成する。 ・児童の言語環境を整え、人権感覚を高める。 ・互いを認め合い、物事を共に創造する体験的な活動を重視する。 ・互いに支え合う、よりよい関係を大切にした活動を重視する。	あいさつを基本とした教師と児童、児童間の良好なコミュニケーションを築く。	元気に挨拶する児童を増やすため、学級経営の充実と特別活動の推進を図る。	4 挨拶運動の年4回以上の実施	3	4 児童アンケートで「すすんであいさつする」が9割以上	4	今年度の重点として各教員が取組を行った。一定の成果は出たが、挨拶の定着をもう一歩進めたい。	A	地域との連携挨拶運動を増やす。また、引き続き、学級経営の充実と特別活動の推進を図る。	
				3 挨拶運動の年3回の実施		3 児童アンケートで「すすんであいさつする」が7割以上					
				2 挨拶運動の年2回の実施		2 児童アンケートで「すすんであいさつする」が5割以上					
		児童が個々のよさを発揮して成長できる学級集団・学年集団を形成する。	①キャリアパスポートの活用 ②QUテストの活用	4 全ての学級でQUテストの結果を活用した。	4	4 2回目のQUの結果で安定感のある学級が3割以上	4	学級も落ち着いて過ごすことができている。個々の良さを発揮して成長できる集団の育成を今後も進める。	A	高学年が低学年の面倒を見ている様子をよく見かけた。児童が個々の良さを発揮できている様子が伺える。	単に落ち着いた学級を目指すのではなく、児童が個々のよさを発揮できる集団を推進する。
				3 9割以上の学級でQUテストの結果を活用した。		3 2回目のQUの結果で安定感のある学級が2割以上					
				2 8割以上の学級でQUテストの結果を活用した。		2 2回目のQUの結果で安定感のある学級が1割以上					
		児童の言語環境を整え、いじめ問題の未然防止と早期解消に全職員で取り組む。	①いじめ防止授業の実施 ②外部講師を招いてのいじめ防止研修会の実施	4 外部講師を招いての研修を年3回以上実施した。	3	4 社会通念上のいじめ件数の前年比2割以上の減少	4	いじめは激減したが、なくなったわけではない。今後も取組を続けていく。	A	全体的な児童の雰囲気はよい。見えないところでのいじめに留意しつつ取組を続けてほしい。	スクールロイヤーの研修会を継続する。また、児童の状況を共有できる機会を引き続き確保する。
				3 外部講師を招いての研修を年2回実施した。		3 社会通念上のいじめ件数の前年比1割以上の減少					
				2 外部講師を招いての研修を年1回実施した。		2 社会通念上のいじめ件数の前年とほぼ同水準					
健やかな体	◎心身を鍛え正しい判断で行動する児童の育成する。 ・児童による目標の設定と振り返りを重視し、基礎的な知識及び技能を習得させる。 ・児童一人一人への注目と成長を支援する。 ・経験や体験を深める活動を重視する。	日常的な運動を通して体力を向上させる。	①体力テスト結果分析を行い、2学期以降の体育に反映 ②休み時間や放課後の外遊びが増えるよう声掛け	4 全教員が体力向上プランを活用した指導を行った	4	4 児童アンケートで「運動が楽しい」が8割以上	3	体力テストはほぼ全国平均値であるが、低学年がやや低く、高学年男子が全体を引き上げている。	A	地域の公園では運動している児童をよく見かける。学校での取組に期待したい。	
				3 8割以上の教員がプランを活用した指導を行った		3 児童アンケートで「運動が楽しい」が7割以上					
				2 7割以上の教員がプランを活用した指導を行った		2 児童アンケートで「運動が楽しい」が6割以上					
		健康で安全な生活のために必要な生活習慣を身に付けさせる。	①グッドモーニング60の推進 ②元気アップガイドブックを活用	4 全教員が元気アップカードを活用した指導を行った	4	4 8割以上の児童がグッドモーニング60の目標を達成している	4	グッドモーニング60の取組を通じて、早寝早起きや朝の排便習慣が定着している児童が多い。	A	グッドモーニング60のさらなる定着に期待したい。	引き続き取組を継続していく。
				3 8割以上の教員が元気アップカードを活用した指導を行った		3 7割以上の児童がグッドモーニング60の目標を達成している					
				2 7割以上の教員が元気アップカードを活用した指導を行った		2 6割以上の児童がグッドモーニング60の目標を達成している					
		安全教育を系統的に進め、自分の命を自分で守る力を育む。	①女生教育主体計画改訂(8月・2月) ②避難訓練の改善(年11回) ③安全指導日の指導(年11回)	4 全ての教員が、安全指導を計画的に行った	4	4 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上	2	外部講師の積極的運用等で安全教育の充実も行ってきたが、保護者の肯定的評価は67%にとどまった。	A	児童に関してはよく取組を行っていると思う。各所と連携し、保護者の周知をお願いしたい。	引き続き取組を継続するとともに、保護者への取組の周知や、安全教育活動への参加を促していく。
				3 8割の教員が、安全指導を計画的に行った		3 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上					
				2 7割の教員が、安全指導を計画的に行った		2 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上					
輝く未来	◎家庭・地域社会との理解を深め、地域の子供を育てる中心的な役割を果たす。 ・学校からの情報を積極的に発信する。 ・家庭や地域の声(期待・要望・批判)を活用する。 ・地域の教育資源や人材を活用する。	教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。	各学年で外部人材を活用した授業を新規に計画する	4 全学年で新規外部人材を活用した授業を実施した	4	4 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上	4	この一年で大きく推進することができた。地元企業や市関連の組織とパイプを構築することができた。	A	地域の方々との交流がすばらしい。続けてほしい。	
				3 7割以上の学年で新規外部人材を活用した授業を実施した		3 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上					
				2 5割以上の学年で新規外部人材を活用した授業を実施した		2 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上					
		保護者ともに児童の安全・安心に関わる指導を充実させる。	地域と連携し、挨拶運動や安全見守り活動の強化を行う。	4 地域と年4回以上の連携ができた	4	4 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上	2	工夫して地域との連携を行ってきたが、PTAや自治会子供会の休会で活動の維持が難しくなってきた。	B	難しい問題であるが、地域と連携しつつ取組を続けてほしい。	地域コーディネーターの確保を行い、学校運営協議会を中心に地域との連携を深める。
				3 地域と年3回以上の連携ができた		3 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上					
				2 地域と年2回以上の連携ができた		2 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上					
		HPやメールを活用した情報発信力を強化する。	1学期中にHPをリニューアルを行い、週1回以上の更新を行う。	4 毎日HPを更新する	4	4 HPのPVが年間10000回以上	4	目標を達成し、情報発信力を高めることができた。	A	情報をしっかりと発信できている。更新頻度も高く、とても良い。	新しいメールシステムを活用した、写真付きの児童の様子を行事時にリアルタイムで配信する。
				3 週に一回以上更新する		3 HPのPVが年間7000回以上					
				2 月に一回以上更新する		2 HPのPVが年間5000回以上					
				1 更新が月に一回以下		1 HPのPVが年間5000回以下					

学校教育目標	○よく考える子 ◎思いやりのある子 ○たくましい子	【目指す学校像】	道徳教育を基盤として魅力ある学校をつくる。
		【目指す児童・生徒像】	「た・な・か」の子 【 た:たくましい子 な:仲良くする子 か:かしこく考える子 の:のびる子 こ:個性豊かな子 】
		【目指す教師像】	「た(Timemanagement=時間管理)・な(Navigator=誘導者・航海士)・か(kindness=思いやり・親切)」を意識し職務を励行する教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎・基本を大切に 分ける授業を実践し、主 体的・意欲的に学び、 基礎的な知識及び技 能等を確実に習得さ せる。	個々の学習状況を正 しく把握し、読む・書 く・計算する力を身に 付けさせる。	授業、ページドリ ル、くじらーニング、日 常のテスト、補習教 室、宿題・家庭学習等 を充実させる。	4 漢字、計算の定着が86%以上 3 漢字、計算の定着が83%以上 2 漢字、計算の定着が81%以上 1 漢字、計算の定着が81%未満	4	4 全国学力 国・算全国平均前年差 -1.5pt 3 全国学力 国・算全国平均前年差 -3.0pt未満 2 全国学力 国・算全国平均前年差 -4.5pt未満 1 全国学力 国・算全国平均前年差 -4.5pt以上	4	第6学年国算全国平均 前年差は-0.75ptだっ た。都平均超目指して いきたい。	ICT教育は大事だが、 国語力の低下が心配。 家庭学習での更なる活 用を期待。	A	ICT機器の活用を促進 し、個に応じた学習を進 め、学力向上を目指 す。
		特別支援教育を充実 させ、どの子にも分か りやすい授業を実践 する。	昭島市立学校 教育 のユニバーサルデザ イン(冊子)を活用する とともに、適切な環境 づくりをする。	4 全校で冊子のUDチェック実施11回以上 3 全校で冊子のUDチェック実施10回以上 2 全校で冊子のUDチェック実施9回以上 1 全校で冊子のUDチェック実施年9回未満	4	4 児童評価「分かりやすい授業90%以上」 3 児童評価「分かりやすい授業88%以上」 2 児童評価「分かりやすい授業86%以上」 1 児童評価「分かりやすい授業86%未満	4	児童評価「分かりやすい授 業」の肯定的回答は91%で あった。さらに指導方法・環 境の改善を進めていく。	UDチェックをしっかりと 行うことで、評価は上 がっていくはず。	A	今後も、UDを踏まえた 学習環境づくりを推進 し、分かりやすい授業の 実践に努める。
		学年相当の時間(学 年×10分)に基づいた 家庭学習を推進させ る。	自己の課題克服に向 け、グッドライフ調査に 取り組ませ、宿題+自 学自習の定着を図る。	4 各学年家庭学習実施率90%以上 3 各学年家庭学習実施率85%以上 2 各学年家庭学習実施率80%以上 1 各学年家庭学習実施率80%未満	4	4 児童評価「家庭学習30分」80%以上 3 児童評価「家庭学習30分」75%以上 2 児童評価「家庭学習30分」70%以上 1 児童評価「家庭学習30分」70%未満	4	児童、学級、家庭の実態を 考慮しながら推進すること ができたが、さらなる習慣 化が課題である。	成果指標を学年の段階 に合わせたい。家庭で の読書量を増やしたい。	A	実態を踏まえて課題の 量や内容が適切かどう か検証し、習慣化をさせ ていく。
		児童の道徳性を醸成 する。	道徳科の特質に即し た授業を行うとともに、 全教育活動を通して 道徳教育を推進する。	4 特質に即した道徳授業を全学級で実施 3 特質に即した道徳授業を9割の学級で実施 2 特質に即した道徳授業を8割の学級で実施 1 特質に即した道徳授業を7割の学級で実施	4	4 児童評価「思いやりの心で行動」が86%以上 3 児童評価「思いやりの心で行動」が83%以上 2 児童評価「思いやりの心で行動」が80%以上 1 児童評価「思いやりの心で行動」が80%以上	4	取組指標は100%実施 でした。成果指標は 87%であり、更なる向上 を目指す。	学校ぐるみ、家庭ぐるみ で道徳教育を推進して いきたい。	A	令和8年度も道徳科を 研究教科として道徳教 育の充実を図っていく。
豊かな心	人権意識を高め、自 他を尊重する態度を 醸成するとともに、集 団の一員である自覚、 規範意識等を育てる。	教員の人権感覚を高 め、児童が安心して生 活できるようにする。	人権教育プログラムを 活用して人権感覚 チェックを年3回以上 実施する。	4 年3回以上実施した 3 年2回実施した 2 年1回実施した 1 実施できなかった	4	4 児童評価「男女の別なく仲良く」90%以上 3 児童評価「男女の別なく仲良く」85%以上 2 児童評価「男女の別なく仲良く」80%以上 1 児童評価「男女の別なく仲良く」80%未満	4	成果指標達成91%。さら なる向上を目指す。	人権教育プログラムの 活用がさらに焦点化で きるとよい。	B	待つ・聴く・受け止める 姿勢で児童が相談しや すくなるような関係性を 構築していく。
		学校生活をより楽し いものにする。	あおば(通常級)・ふた ば(知的固定)・わかば (情緒固定)の計画に 基づく交流活動を充 実させる。	4 交流計画の実施率90%以上 3 交流計画の実施率85%以上 2 交流計画の実施率80%以上 1 交流計画の実施率80%未満	4	4 児童評価「学校生活は楽しい」が88%以上 3 児童評価「学校生活は楽しい」が85%以上 2 児童評価「学校生活は楽しい」が82%以上 1 児童評価「学校生活は楽しい」が82%未満	4	成果指標達成89%。交 流計画の機会を増やし ていく。	行事でのあおば、ふた ば、わかばの交流がよ い。指標の「楽しさ」の分 析をしたい。	A	楽しい田中小学校をつ くるために、これからも新 しい発想を大切にし、交 流活動を推進していく。
		日常的な運動を通して 体力を向上させる。	元気アップガイドブック を活用して体力向上 のための体育的な活 動を行う。	4 児童評価「運動に意欲的」85%以上 3 児童評価「運動に意欲的」80%以上 2 児童評価「運動に意欲的」75%以上 1 児童評価「運動に意欲的」75%未満	4	4 体力調査のA,B,C判定の児童が65%以上 3 体力調査のA,B,C判定の児童が60%以上 2 体力調査のA,B,C判定の児童が55%以上 1 体力調査のA,B,C判定の児童が50%未満	4	元気アップガイドブック や外遊びの推進で体力 向上を推進していく。	体力向上週間(なわと び、持久走)がよい。長 期休業中の体力向上を 意識して欲しい。	B	元気アップガイドブック のさらなる活用と、体育 学習を推進し、体力向 上を目指す。
		健康で安全な生活の ために必要な生活 習慣や食習慣を身 に付けさせる。	グッドモーニング60分 (GM60分)を推進して 健康教育を行う。	4 健康教育の授業を毎学期・年3回以上実施 3 健康教育の授業を年2回実施 2 健康教育の授業を年1回実施 1 健康教育の授業を未実施	4	4 GM60分達成率が全児童の80%以上 3 GM60分達成率が全児童の77%以上 2 GM60分達成率が全児童の72%以上 1 GM60分達成率が全児童の72%未満	4	高学年児童の達成率が 上がらない。発達段階 に合わせた指標も検討 していく。	GM60の習慣化を大切 にしたい。スマホ等の使 用の長時間化が気にな る。	A	今後も、通年でGM60分 の推進を図るようにす る。
健やかな体	健康で安全な生活の ために必要な食 習慣を身に付けさせ る。	健康で安全な生活の ために必要な食 習慣を身に付けさせ る。	望ましい食習慣を身に 付けるための給食や お弁当(食育)の日の 指導を推進する。	4 食育の指導を毎学期・年3回以上実施 3 食育の指導を年2回実施 2 食育の指導を年1回実施 1 食育の指導を未実施	4	4 児童評価「食育の活用」81%以上 3 児童評価「食育の活用」79%以上 2 児童評価「食育の活用」77%以上 1 児童評価「食育の活用」77%未満	4	栄養士との連携を深め、 成長の基盤となる食育 を推進していく。	市の栄養教諭の活用も 考えていきたい。	A	「食」の大切さや食生活 のマナーなどを身に付 けられるよう、日常の給 食指導に取り組む。
		将来の夢を児童にもた せる。	6年職場体験、キャリ ア・パスポート等を活 用し職の理解を深め る。	4 児童評価「将来を考える」85%以上 3 児童評価「将来を考える」83%以上 2 児童評価「将来を考える」80%以上 1 児童評価「将来を考える」80%未満	4	4 保護者評価「将来を考えさせている」85%以上 3 保護者評価「将来を考えさせている」83%以上 2 保護者評価「将来を考えさせている」80%以上 1 保護者評価「将来を考えさせている」80%未満	4	キャリア・パスポートをよ り一層活用して、自分 の将来について考えてい けるようにする。	職場体験等を通じ、将 来を考えることは大事。 6年生の総合の更なる 充実を期待。	B	今後も、自分の将来像 をイメージさせ、生涯 学習の基盤となるキャ リア教育を一層充実させる。
		学校からの情報発信 を積極的に行う。	学校便りの発行・メー ル配信を月1回以上、 HPの更新を月3回以 上行う。	4 8月を除く11ヶ月で実施 3 8月を除く10ヶ月で実施 2 8月を除く9ヶ月で実施 1 8月を除く8ヶ月で実施	4	4 HPの更新75回以上 3 HPの更新70回以上 2 IHPの更新65回以上 1 HPの更新60回未満	4	今年度も、必要な情報 が見つけやすいHPであ るとのご意見が多数届 いた。	情報発信は大事。メー ル配信での連絡は今後 も続けて欲しい。双方 向の情報活用も充実さ せたい。	A	さらに必要な情報を分 かりやすく発信できる よう工夫していく。
		集団の中での自分の 役割を理解し、すす んで行動する力を育 む。	リーダーシップやフォ ロワーシップについて 理解させ、すすんで 実践する児童を育て る。	4 集団内での役割の指導を全教員が実施 3 集団内での役割の指導を9割の教員が実施 2 集団内での役割の指導を8割の教員が実施 1 集団内での役割の指導を7割未満の教員が実施	4	4 児童評価「生活をよりよくする」86%以上 3 児童評価「生活をよりよくする」83%以上 2 児童評価「生活をよりよくする」80%以上 1 児童評価「生活をよりよくする」80%未満	4	児童評価「生活をよりよ くする」の肯定的回答は 90%であった。	リーダーシップと併せ て、フォロワーシップの 指導も充実させて欲 しい。	A	今後も、発達段階に 応じた取組を工夫し、異 学年等での交流活動の機 会を増やしていく。

学校教育目標	○よく考える子(知) ◎心ゆたかな子(情) ○元気な子(意)(体)	【目指す学校像】	○「子供の成長」を教育活動の中核に置き、連携・協働する学校 ○「チーム」一丸で教育活動を推進する学校
		【目指す児童・生徒像】	○自らの人生(運命)を自らの力で切り拓き、これからの社会の創造を担える児童～グローバルに考え、ローカルに実践する子～
		【目指す教師像】	○「チーム拝二」の一員として、自らすすんで学び、高め合い、協働して職務を遂行する教師 ○子供のよさや可能性を伸ばせる教師集団

領域	中期経営目標(3年間)	短期経営目標(1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	(知) 自ら学び考え判断し、協働して問題を解決することができる児童の育成	日々の授業を充実させ、全国学力・学習状況調査の平均正答率の引き上げを図る。	「授業改善推進プラン」を基に、児童が自身の学びの成果を実感できるように指導する。	4 8割以上の教職員が、「授業改善推進プラン」に基づく指導を行った。	4	4 学力調査の平均正答率が国比OP	1	授業改善推進プラン」を基に全教職員が授業を実施したが、6年の全国学力・学習状況調査において、本校児童の平均正答率は、国語63%(全国66.8%)、算数56%(全国58%)だった。	C	今年度は国語科の学力に課題があったため、次年度は校内研究で「読解の基礎・基本」について研究を進めていく。また、読書活動の推進にも力を入れ、確かな学力と学習への主体的な態度を育成する。	
				3 7割以上の教職員が、「授業改善推進プラン」に基づく指導を行った。		3 学力調査の平均正答率が国比-1P					
				2 6割以上の教職員が、「授業改善推進プラン」に基づく指導を行った。		2 学力調査の平均正答率が国比-2P					
1 6割未満の教職員が、「授業改善推進プラン」に基づく指導を行った。	1 学力調査の平均正答率が国比-3P										
			指導計画のPDCAサイクル化を図り、児童が考えを深め、表現する場を意図的・計画的に設定する。	4 8割以上の教職員が、児童が考えを深め表現する場の設定を計画的に行った。	4	4 「思考・判断・表現」の評価B以上70%以上	4	授業改善推進プラン」を基に授業を実施する中で、児童が考えを深め、表現する場の設定を行ってきた。朝学習や読書時間に継続して取り組んできた中で、その成果が表れつつある。	A	次年度も児童が考えを深め、表現する場の設定を、授業の中に意図的に取り入れていく。また、視写や文章表現の学習など、各学年に応じた適切な指導を授業全般を通して実践していく。	
		3 7割以上の教職員が、児童が考えを深め表現する場の設定を計画的に行った。	3 「思考・判断・表現」の評価B以上60%以上								
		2 6割以上の教職員が、児童が考えを深め表現する場の設定を計画的に行った。	2 「思考・判断・表現」の評価B以上50%以上								
		1 6割未満の教職員が、児童が考えを深め表現する場の設定を計画的に行った。	1 「思考・判断・表現」の評価B以上50%未満								
		学んだことを日常生活に生かしたり、自分の周りの社会に役立てたりしようとする児童を育成する。	各教科、特別活動、特別の教科 道徳を中心に、教育活動全体を通して児童が自己分析で課題を設定し、自ら挑戦できる場を設定する。	4 8割以上の教職員が、授業実践における振り返りを行った。	4	4 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童70%以上	4	全教職員が授業後の振り返りや「授業で学んだことを生活に生かす」ことを意図的に指導してきた(91.5%)。成果指標は77.1%であり、昨年度よりも増加している。	A	児童が学んだことを、いかに生活に生かすのかを、学校生活全般を通して指導していく。更に、「学習の振り返り」の時間を確保し、セルフモニタリング、セルフコントロールする力を育成する。	
		3 7割以上の教職員が、授業実践における振り返りを行った。	3 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童60%以上								
		2 6割以上の教職員が、授業実践における振り返りを行った。	2 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%以上								
		1 6割未満の教職員が、授業実践における振り返りを行った。	1 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%未満								
豊かな心	(情) 自らの良さを見つめ、他者を尊重し、共により良く生きようとする児童の育成	不登校児童を減らし、全ての児童が安心して登校できる学校にする。	①不登校アセスメントの実施 ②「のびのびルーム」の効果的な活用 ③温かい学級づくりによる不登校の未然防止	4 8割以上の教職員が、不登校対策に取り組んだ。	4	4 不登校の出現回数2割減少	2	学校いじめ対策委員会、不登校対策委員会を毎月開き、個別の案件に丁寧に対応している。家庭的な問題で解決に至らない案件が多いが、のびのびルームの活用等で改善も見られている。	B	不登校児童に対してはオンライン授業の実施や「のびのびルーム」の利用などを勧め、継続して、児童と社会のつながりが断たれることのないように全教職員で取り組んでいく。	
				3 7割以上の教職員が、不登校対策に取り組んだ。		3 不登校の出現回数1割減少					
				2 6割以上の教職員が、不登校対策に取り組んだ。		2 不登校の出現回数増減なし					
1 6割未満の教職員が、不登校対策に取り組んだ。	1 不登校の出現回数増加										
		児童の自己有用感、思いやりや協調性、コミュニケーション能力の向上を図る。	①学校行事での実行委員の活躍の場の設定 ②異学年交流の実施 ③学級会の計画的な実施	4 8割以上の教職員が、異学年交流・学級会を行った。	4	4 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童70%以上	4	学級会や異学年交流に力を入れてきた(95.5%)。児童が課題を見だし改善する機会を設け、各行事では実行委員会を設置し、児童が中心となって活躍する機会を設けてきた。その成果が表れている。	A	今後も、左記の取組を継続するとともに、行事や学校生活の中で児童が活躍する場を設け、更なる児童中心の学校づくりを進めていく。	
		3 7割以上の教職員が、異学年交流・学級会を行った。	3 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童60%以上								
		2 6割以上の教職員が、異学年交流・学級会を行った。	2 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%以上								
		1 6割未満の教職員が、異学年交流・学級会を行った。	1 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%未満								
		学校の決まりを守る風土を創り上げる。	学校の決まりの意味・意義を理解させ、守らせる。	4 8割以上の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。	4	4 学校のきまりを守っていると回答する児童70%以上	4	年度や学期の初めにおいて全校で統一した「学校のきまり」を児童に指導している。また、問題行動が見られた際においても、教員が共通理解をもって、決まりの意味や意義を児童に説いている。	B	教職員と児童とで決まりの意味を考えるだけでなく、児童会や児童相互で「お互いが過ごしやすい学校を創り上げていくには、どうしたら良いか。」を考えさせ、主体的に活動できるように指導をしていく。	
		3 7割以上の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。	3 学校のきまりを守っていると回答する児童60%以上								
		2 6割以上の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。	2 学校のきまりを守っていると回答する児童50%以上								
		1 6割未満の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。	1 学校のきまりを守っていると回答する児童50%未満								
健やかな体	(体) 自らすすんで心と体をきたえ、たくましく生きる児童の育成	日々の授業の充実を基に、体育の授業が好きな児童を増やす。	体育研修を実施し、体育科の授業の充実を図る。体力向上旬間を設定する。	4 8割以上の教職員が、体育研修を活用した指導を行った。	4	4 運動が好きになったと回答する児童70%以上	4	教員の体育研修を行い、それを活用した体育の授業を行った(90.5%)。少しずつ成果に表れているが(76.1%)、更に運動が好きな児童が増えるよう、取組を充実させていく必要がある。	B	次年度も教員の体育研修を実施し、体育の授業の充実を目指す。体力向上旬間の取組を更に進めていく。	
				3 7割以上の教職員が、体育研修を活用した指導を行った。		3 運動が好きになったと回答する児童60%以上					
				2 6割以上の教職員が、体育研修を活用した指導を行った。		2 運動が好きになったと回答する児童50%以上					
1 6割未満の教職員が、体育研修を活用した指導を行った。	1 運動が好きになったと回答する児童50%未満										
		児童の課題に応じた様々な運動に親しませる場を設定し、運動能力の向上を図る。	体力調査の結果に基づく課題分析・解決策の共通理解と共通実践をする。コーディネーショントレーニングを実施する。	4 8割以上の教職員が、体力向上のための取組を実施した。	3	4 Tスコアを都平均以上にする。	3	体力向上旬間を設定し、コーディネーショントレーニングにも計画的に取り組んだ。しかし、取組指標の結果からまだ改善の余地がある。課題克服のための共通実践を計画し、取り組んでいく必要がある。	B	体力調査の結果による課題分析を基に、課題を克服するための取組を考え、全校で取り組んでいくようにする。体育部を中心に、体力向上の取組を継続させるとともに、更なる工夫改善をしていく。	
		3 7割以上の教職員が、体力向上のための取組を実施した。	3 Tスコアを都平均にする。								
		2 6割以上の教職員が、体力向上のための取組を実施した。	2 Tスコアを都平均より-1%にとどめる。								
		1 6割未満の教職員が、体力向上のための取組を実施した。	1 Tスコアを都平均より-2%にとどめる。								
		家庭と連携して、児童の基本的な生活習慣の向上を目指す。	「元気アップガイドブック」や「すっきりカード」を計画的に活用し、児童自身が生活改善の大切さを意識し実感できるようにする。	4 8割以上の児童が、「すっきりカード」を計画的に活用した。	3	4 生活改善を実感する児童70%以上	3	今年度は「元気アップガイドブック」に加え、「すっきりカード」を活用し、児童の生活改善を目指した。生活改善を実感している児童は65.7%と、あと一歩目標に届いていない。継続して取り組んでいく。	C	次年度も保健部の「すっきりカード」と体育部の「元気アップカード」を活用する。生活習慣の改善を保護者に呼びかけ、家庭の協力も得ながら推進していく。	
		3 7割以上の児童が、「すっきりカード」を計画的に活用した。	3 生活改善を実感する児童60%以上								
		2 6割以上の児童が、「すっきりカード」を計画的に活用した。	2 生活改善を実感する児童50%以上								
		1 6割未満の児童が、「すっきりカード」を計画的に活用した。	1 生活改善を実感する児童50%未満								
輝く未来	(意) 自らすすんで挑戦し、最後までやり遂げることができる児童の育成	自ら学び、自ら考える力やより良く課題を解決し、自分の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。	総合的な学習の時間や各教科等の授業において、教科横断的・探究的な学習の充実を図る。	4 8割以上の教職員が、探究的な学習の授業実践に取り組んだ。	4	4 主体的に学習していると回答する児童70%以上	4	校内研究で「自分の力で未来を切り開く児童の育成」をテーマに、各学年で探究的な学習の授業実践に取り組んだ。主体的に学習していると回答した児童は70.7%で、少しずつ成果が表れてきている。	B	探究的な学習の授業実践が、さらに定着するように、その学習の成果を発表する機会を設けている。その取組を今後も継続し、児童の意欲を高めていく。	
				3 7割以上の教職員が、探究的な学習の授業実践に取り組んだ。		3 主体的に学習していると回答する児童60%以上					
				2 6割以上の教職員が、探究的な学習の授業実践に取り組んだ。		2 主体的に学習していると回答する児童50%以上					
1 6割未満の教職員が、探究的な学習の授業実践に取り組んだ。	1 主体的に学習していると回答する児童50%未満										
		●SDGsの達成のために社会を変革する主体者として、家庭生活から変えていくとする態度を育てる。 ●地域人材を活用し、人との関わりの中で学ぶ機会を充実させる。	●SDGsの達成のために、家庭生活を実際に改善しようと行動に移すことができる児童を育成する。 ●地域人材を活用した体験活動を実施し、社会貢献しようとする児童を育成する。	4 8割以上の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。	3	4 社会貢献しようとする児童70%以上	4	地域人材を活用した体験活動は、昨年度に比べ増えた。「社会貢献しようと考えている」と答えた児童は71.7%だった。実践に結び付くよう、更に様々な体験活動を実施していく。	A	今年度行った「地域人材を活用した体験活動」を継続するとともに、新たなゲストティチャーを招聘し、体験活動の充実を図っていく。	
		3 7割以上の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。	3 社会貢献しようとする児童60%以上								
		2 6割以上の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。	2 社会貢献しようとする児童50%以上								
		1 6割未満の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。	1 社会貢献しようとする児童50%未満								
		体験活動を充実させ、社会の多様な課題への関心・意欲を高める。	昭島市版「キャリアアルバム」を活用して、児童が自らの将来に、夢をもてるように指導する。	4 8割以上の教職員が、キャリアアルバムを活用した指導を行った。	4	4 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童70%以上	4	「キャリアアルバム」の活用は行ったが、成果指標において、「将来への夢や希望がもてたと」答える児童の割合は72.9%だった。引き続きキャリア教育や学校行事などの充実を図っていく必要がある。	A	児童が将来に対して、より夢や希望がもてるよう、家庭と学校での連携の在り方を検討する。また、キャリアアルバム以外にも、総合的な学習において、キャリア教育を充実させていく。	
		3 7割以上の教職員が、キャリアアルバムを活用した指導を行った。	3 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童60%以上								
		2 6割以上の教職員が、キャリアアルバムを活用した指導を行った。	2 将来への夢や希望がもてたと回答する児童50%以上								
		1 6割未満の教職員が、キャリアアルバムを活用した指導を行った。	1 将来への夢や希望がもてたと回答する児童50%未満								

学校教育目標	○かしこく(よく考え 工夫する子) ◎やさしく(自他を大切にする子) ○つよく(明るく 元気な子)	【目指す学校像】	・全ての児童の良さ・可能性を伸ばし、自己肯定感を育てる学校。
		【目指す児童・生徒像】	・自己肯定感をもって自己発揮でき、自他ともに良さが分かり、大切にできる児童。
		【目指す教師像】	・様々な教育課題に適切に対応し、経営参画意識をもち、職層に応じた役割を果たしながらチーム力を高めることができる教師集団

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策		
確かな学力	児童が「分かった、できた」と喜びのある授業の実践により、学力の向上を図る。	主体的・対話的で深い学び、問題解決学習や探究学習の充実に取り組む。	①単元ごとに問題解決学習や探究学習の徹底 ②授業の振り返りの質の向上 ③「学習スタンダード」の徹底	4 全ての教員が、児童が主体的な授業を行った。 3 8割以上の教員が、児童が主体的な授業を行った。 2 7割以上の教員が、児童が主体的な授業を行った。 1 児童が主体的な授業を行った教員が7割以下であった。	4	4 児童アンケートで「主体的に学習した」が8割以上 3 児童アンケートで「主体的に学習した」が7割以上 2 児童アンケートで「主体的に学習した」が6割以上 1 児童アンケートで「主体的に学習した」が6割未満	3	全教職員が「問題解決型」の徹底や「学習スタンダード」の徹底、ICT機器の活用を行ったが、アンケートで主体的に学習したと回答した児童は89%であった。授業での振り返りを重視して、授業改善に努めている。	B		授業公開や学校IPを活用して、学習の取り組みを家庭・地域と共有していくとともに、授業での振り返りを重視して個別に課題意識を高めていく。		
			①どの児童にも優しい教室環境 ②どの児童にも優しい学習環境 ③どの児童にも分かる授業	4 ユニバーサルデザインチェックリストの全てに取り組んだ。 3 ユニバーサルデザインチェックリストの8割以上に取り組んだ。 2 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以上に取り組んだ。 1 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以下にしか取り組めなかった。		4 児童アンケートで「分かりやすい」が8割以上 3 児童アンケートで「分かりやすい」が7割以上 2 児童アンケートで「分かりやすい」が6割以上 1 児童アンケートで「分かりやすい」が6割未満		4			全ての学級でユニバーサルデザイン化を推進し、児童アンケートで「分かりやすい」と回答した児童は80.2%となった。視覚的教材の活用など、改善に努める。	A	児童の学習に向かう聞く姿勢や集中力向上のため、授業のユニバーサルデザイン化を計画的に進めていく。
			①各学習場面に相応しいICT機器の利用 ②キャリア・パスポートに関わる指導(年3回以上)	4 全ての教員が、各学習場面に相応しいICT機器を用いた授業を行った。 3 8割の教員が、各学習場面に相応しいICT機器を用いた授業を行った。 2 7割の教員が、各学習場面に相応しいICT機器を用いた授業を行った。 1 6割の教員が、各学習場面に相応しいICT機器を用いた授業を行った。		4 児童アンケートで「有効活用できた」が8割以上 3 児童アンケートで「有効活用できた」が7割以上 2 児童アンケートで「有効活用できた」が6割以上 1 児童アンケートで「有効活用できた」が6割未満		4			7月16日に2年から6年までの児童が第1回目のオンライン授業を実施した。アンケートでは、85%の児童が肯定的な評価であった。また、2学期には、1年生も加わり、全校児童がオンライン授業に取り組むことができた。	B	タブレットに親しむことと使用にあたっての注意事項の徹底は両輪だと思う。経験の積み重ねが確かな学力に繋がると思う。
豊かな心	児童の自尊感情や自己有用感の向上を図る。	自尊感情の精神に基づき、いじめがない学級、学校づくり。	①様々な個性が認められる学級づくり ②「オアシス」の挨拶 ③より良い人間関係を築く言語環境	4 全学級が取組を行った。 3 17学級以上が取組を行った。 2 15学級以上が取組を行った。 1 13学級以上が取組を行った。	4	4 すすんで活動に取り組んだと思える児童が8割以上 3 すすんで活動に取り組んだと思える児童が7割以上 2 すすんで活動に取り組んだと思える児童が6割以上 1 すすんで活動に取り組んだと思える児童が6割未満	4	生活スタンダードの徹底により、学校は全体的に落ち着いた状態に保たれている。挨拶や廊下歩行等、課題が見られるので、組織的に改善を進めていく。	A		生活スタンダードの内容を精査して、挨拶や廊下歩行等、意識向上できるように、組織的に改善を進めていく。		
			①児童が考え議論する道徳 ②情報モラルについての指導	4 全ての教員が、道徳の時間の指導を改善した。 3 8割の教員が、道徳の時間の指導を改善した。 2 7割の教員が、道徳の時間の指導を改善した。 1 6割の教員が、道徳の時間の指導を改善した。		4 児童アンケートで「学校が楽しい」が8割以上 3 児童アンケートで「学校が楽しい」が7割以上 2 児童アンケートで「学校が楽しい」が6割以上 1 児童アンケートで「学校が楽しい」が6割未満		4			児童アンケートでは、90.7%の児童が「学校は楽しい」と回答している。毎月、スクールカウンセラーを交えて、学校いじめ対策委員会を定期的に開催し、児童の実態把握やトラブルの早期解決に結び付けている。	B	授業公開やブログ等で目標に近付ける授業内容の工夫が確認できた。SNSの時代に即した指導が急務だと思う。
			①学校図書館の利用(週1回) ②読書旬間の実施(年3回) ③音読や読み聞かせなどの工夫	4 全ての学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 3 8割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 2 7割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 1 6割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。		4 年間30冊以上の本を借りた児童が8割以上 3 年間30冊以上の本を借りた児童が7割以上 2 年間30冊以上の本を借りた児童が6割以上 1 年間30冊以上の本を借りた児童が6割未満		3			「読書は楽しい」と肯定的にとらえている児童は、70.8%を示している。読書旬間等の内容を改善しながら、学校全体での取組を進め、読書への関心を高める工夫改善を進めていく。	B	読書旬間の内容の精選や常時活動の見直しを行い、昭島市図書館等との連携を図り、読書への関心・意欲を高めていく。
健やかな体	総合的な体力の向上と日常的な健康教育の重視を図りながら、心身ともに健康な児童の育成をする。	運動能力テストの結果を基に作成する体力向上プランに基づき、系統的な指導を進める。	①体力向上プラン ②休み時間・外遊びの励行 ③運動週間の活用	4 全教員が体力向上プランを活用した指導を行った。 3 8割以上の教員がプランを活用した指導を行った。 2 7割以上の教員がプランを活用した指導を行った。 1 7割未満の教員がプランを活用した指導を行った。	4	4 児童アンケートで「運動が楽しい」が8割以上 3 児童アンケートで「運動が楽しい」が7割以上 2 児童アンケートで「運動が楽しい」が6割以上 1 児童アンケートで「運動が楽しい」が6割未満	4	児童アンケートでは、85%の児童が「運動は楽しい」と回答している。夏以降、運動会に向けての取り組みや民間委託での水泳指導等、運動する機会が増え、児童の体力向上に努めることができた。	A		ブル指導の委託については、安全面や先生方の負担を軽減でき、とても良い取り組みだと思う。中休みの有効利用の継続と校外学習、例えば体力増進ウォーキング等はどうか。		
			①元気アップガイドブックの活用 ②「グッドモーニング60分」の家庭への啓発と学期初めなどの取組	4 全教員が元気アップガイドブックを活用した指導を行った。 3 8割以上の教員が元気アップガイドブックを活用した指導を行った。 2 7割以上の教員が元気アップガイドブックを活用した指導を行った。 1 6割以上の教員が元気アップガイドブックを活用した指導を行った。		4 児童アンケートで「健康な生活を送れた」が8割以上 3 児童アンケートで「健康な生活を送れた」が7割以上 2 児童アンケートで「健康な生活を送れた」が6割以上 1 児童アンケートで「健康な生活を送れた」が6割未満		3			グッドモーニング60分を活用した指導を実施してきた。また、からだうきうきウィークを設定し、全校児童で、体力増進に向けて、取り組むことができた。	A	学校として取り組んでいる姿勢が評価されると思う。家庭と連携して食事、睡眠等、総合的な取り組みが大切だと思う。
			①安全指導の充実(安全教育プログラムの活用等) ②避難訓練の工夫・充実	4 全ての教員が、安全指導を計画的に行った。 3 9割の教員が、安全指導を計画的に行った。 2 8割の教員が、安全指導を計画的に行った。 1 7割の教員が、安全指導を計画的に行った。		4 保護者による学校評価において肯定的評価が8割以上 3 保護者による学校評価において肯定的評価が7割以上 2 保護者による学校評価において肯定的評価が6割以上 1 保護者による学校評価において肯定的評価が6割未満		4			避難訓練の改善もよい、警察と連携した不審者対応訓練や管理職不在時を想定した訓練を実施することができた。年間の安全指導について、全教員で確認し、計画的に進めている。	A	工夫を凝らした安全教育の継続と同時に登下校時の自乗車の乗り方等、児童の安全面での意識向上に努めていく。
輝く未来	将来を見つめ、社会を担う「たくましい昭島っ子」の育成をする。	学級や学校の課題を見出し、より良く解決するために、話し合っって合意形成する力を育む。	①学級会活動(年10回以上) ②良い話し手・聴き手育成へ計画的指導	4 全ての学級が、計画的に実施した。 3 8割以上の学級が、計画的に実施した。 2 7割以上の学級が、計画的に実施した。 1 6割以上の学級が、計画的に実施した。	4	4 児童アンケートで「話し合いが楽しい」が8割以上 3 児童アンケートで「話し合いが楽しい」が7割以上 2 児童アンケートで「話し合いが楽しい」が6割以上 1 児童アンケートで「話し合いが楽しい」が6割未満	4	児童アンケートで、86.5%の児童が「話し合い活動で自分の考えを深めることができた」と回答した。全ての学級で学期に一度、オンライン授業を実施することができた。	A		学校ブログ等で確認することができた。取組を通して相手を尊重する心やコミュニケーション能力を高めてほしい。		
			①係活動や縦割り班活動などの充実 ②学校行事において実行委員会などの活用	4 全ての教員が意識して指導に当たった。 3 8割以上の教員が、意識して指導に当たった。 2 7割以上の教員が、意識して指導に当たった。 1 6割以上の教員が、意識して指導に当たった。		4 児童アンケートで「学校行事が楽しかった」が8割以上 3 児童アンケートで「学校行事が楽しかった」が7割以上 2 児童アンケートで「学校行事が楽しかった」が6割以上 1 児童アンケートで「学校行事が楽しかった」が6割未満		3			多くの学年で外部人材を活用した授業を行うことができた。校外学習で、近隣の施設見学等を広げていくことができた。	B	外部人材活用の流れができていくことは、評価されると思う。活動により責任感を身に付けたり、他の意見や行動を受け入れる学びにつながると思う。
			①全学年で外部人材や文化財を活用した授業を行う。 ②PTAや地域と連携し安全見守り活動を行う。	4 全学級で連携した授業を行った。 3 8割以上の学級で連携した授業を行った。 2 7割以上の学級で連携した授業を行った。 1 6割以上の学級で連携した授業を行った。		4 児童アンケートで「地域と関わって良かった」が8割以上 3 児童アンケートで「地域と関わって良かった」が7割以上 2 児童アンケートで「地域と関わって良かった」が6割以上 1 児童アンケートで「地域と関わって良かった」が6割未満		3			コミュニティ・スクールとして、地域・保護者との連携について計画的に進めていく必要がある。	B	他校の取り組み状況等を参考にしながら、コミュニティ・スクールとしての組織体制や運営について、改善に努める。

学校教育目標	夢への挑戦 ～ 広げよう可能性 高めよう創造性 ～	【目指す学校像】	(1)知・徳・体をバランスよく育む学校。(2)人間環境・生活環境が整った安心・安全な学校。(3)元気な挨拶や歌声が響く活気ある学校(4)家庭・地域とのつながりを大切にしている学校。
		【目指す児童・生徒像】	(1)自ら考え深く学ぶ生徒。(2)自他ともに大切にできる生徒。(3)自分を表現しつつ互いに認め合える生徒。(4)社会性が身につけている生徒。
		【目指す教師像】	(1)豊かな人間性を備え、生徒の範となれる教師。(2)生徒と正面から向き合い、信頼される教師。(3)授業力が高い教師。(4)組織の一員として学校運営に貢献できる教師。

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策		
確かな学力	基礎的・基本的な知識や技能の習得、思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学ぶ態度の育成と学びに向かう力と人間性等を養う。	教師・生徒共に授業規律の維持・向上を図る。	①全授業で昭和中学校授業スタンダードの実践徹底。	4 授業スタンダードによる働きかけを毎時間実施。	3	4 「楽しくも規律がある授業である」90%以上。	4	生徒は 約87%が肯定的 であり、おおむね授業スタンダードによる働きかけの成果が出ている。	生徒による授業評価が高く、評価できる。	B	より授業スタンダードを定着させていく。		
				3 " おおむね実施。		3 " ~80%以上。							
				2 " 半分程度実施。		2 " ~70%以上。							
				1 " あまりできていない。		1 " 70%未満。							
		授業での効果的なICT活用を図る。	①様々なアプリケーションを工夫・活用した授業実践。	4 ICTを有効活用する授業を毎時間実施。	3	4 「授業でICTを有効活用している」90%以上。	3	4 " ~80%以上。	2	生徒は 約74%が肯定的 であり、活用はしているが、教科によって活用しにくい単元があると思われる。	授業でどのような場面で使用するのかのスタンダードがあるとよい。	C	活用の目的を今一度確認し、より有効活用する。
				3 " おおむね実施。		3 " ~80%以上。							
				2 " 半分程度実施。		2 " ~70%以上。							
				1 " あまりできていない。		1 " 70%未満。							
		自分の考えを他者に伝える力を育む。	①話し合い活動と発表を全授業で実施。	4 対話的な授業を十分実施。	3	4 「考えを話したり発表したりが十分ある」90%以上。	3	4 " ~80%以上。	2	生徒は 約72%が肯定的 であった。教科や単元によって差異があるのが現状である。	話し合い活動の常態化が必要。	C	話し合い活動をパターン化し、意見を出し合い認め合うことを常態化する。
				3 " おおむね実施。		3 " ~80%以上。							
				2 " 半分程度実施。		2 " ~70%以上。							
				1 " あまりできていない。		1 " 70%未満。							
主体的に学習に取り組む態度の育成と家庭学習の定着を図る。	①シラバスの作成。 ②シラバスに基づく定期テスト前の学習方法の確認の実施。	4 シラバスによる家庭学習推進を確実に実施。	3	4 「学校外の学習時間」平均3時間以上。	3	4 " 平均3時間未満~2時間。	3	生徒は 3が最も多かった 。塾等も含んでいる。時期、また生徒によって時間に差異があるのが伺えた。	引き続き家庭学習の大切さを働きかける。	B	試験前や長期休業前に、全ての授業でシラバスを基に家庭学習を推進する。		
		3 " おおむね実施。		3 " 平均2時間未満~1時間。									
		2 " 半分程度実施。		2 " 平均1時間未満。									
		1 " あまりできていない。		1 " 70%未満。									
豊かな心	全教育活動を通じて、人権教育・心の教育を推進し、自立した人間として、他者とともによりよく生きるための基盤となる豊かな人間性を育てる。	全教育活動を通じて互いの認め合いから安心して落ち着いた生活が送れるようにする。	①勇気づけ言葉を活用し、頑張らせ、勇気づけ、ほめる指導の実践。	4 勇気づけ言葉を積極的に活用。	4	4 「落ち着いて生活できている」90%以上。	4	生徒は 約88%が肯定的 であった。学校の雰囲気により、おおむね落ち着いた生活が送れている。	取り組みが定着できていると感じる。	A	このまま肯定的な言葉がけを続ける。		
				3 " おおむね実施。		3 " ~80%以上。							
				2 " 半分程度実施。		2 " ~70%以上。							
				1 " あまりできていない。		1 " 70%未満。							
		考え、議論する道徳授業を実践し、よりよく生きる心を育てる。	①内容項目の理解から議論や発問の工夫。	4 考え、議論する道徳授業を毎回実施。	3	4 「生活を振り返ってより良くしようと思う」90%以上。	3	4 " ~80%以上。	3	生徒は 約84%が肯定的 であった。道徳をはじめとし、学校生活を考える習慣がおおむねついている。	引き続き実生活に生きる道徳授業を期待する。	B	毎時間の道徳のまとめ(終末)で日常生活と結びつく振り返りを行う。
				3 " おおむね実施。		3 " ~80%以上。							
				2 " 半分程度実施。		2 " ~70%以上。							
				1 " あまりできていない。		1 " 70%未満。							
		未然防止に努めながら、いじめへの適切な対応を充実させる。	①安全集会による未然防止の指導の実施。 ②毎月の生活アンケートの実施。	4 いじめへの早期対応を十分に実践。	4	4 「いじめをしない、見逃さない意識である」90%以上。	4	4 " ~80%以上。	2	生徒は 約74%が肯定的 であった。教員の意識と生徒の意識にやや乖離がある。	生徒に指導をどう意識付し、定着させていくかが課題。	C	いじめ防止に対する生徒の意識を高める取組を、道徳等を用いてより推進する。
				3 " おおむね実施。		3 " ~80%以上。							
				2 " 半分程度実施。		2 " ~70%以上。							
				1 " あまりできていない。		1 " 70%未満。							
教育相談を充実させつつ、個に応じた対応を連携して行う。	①校内委員会の充実。 ②合理的配慮の範囲の整理と共通実践。	4 生徒個々の実態に応じた丁寧な対応を十分に実施。	4	4 「相談できる大人がいる」90%以上。	4	4 " ~80%以上。	3	生徒は 約78%が肯定的 であった。一部に相談することへの抵抗感を感じる生徒がいる。	相談への抵抗感の理由を分析しておくことが必要。	B	学級や学年で教員と生徒が適宜面談する時間を持つ。		
		3 " おおむね実施。		3 " ~80%以上。									
		2 " 半分程度実施。		2 " ~70%以上。									
		1 " あまりできていない。		1 " 70%未満。									
健やかな体	心身共にたくましく、健やかな生徒の育成を図り、健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う。	体育的な活動を効果的に実施し、体力向上と生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育成する。	①体力向上に係る個人目標の設定。 ②体育祭等で工夫した活動の推進。	4 積極的な体育活動への参画に向けた指導を十分実施。	3	4 「体育的行事に積極的に参加している」90%以上。	4	生徒は 約95%が肯定的 であった。体育祭の成功が大きかった。	体育祭の活発な様子は素晴らしかった。	A	引き続き前向きに取り組める体育行事と体育授業を推進する。		
				3 " おおむね実施。		3 " ~80%以上。							
				2 " 半分程度実施。		2 " ~70%以上。							
				1 " あまりできていない。		1 " 70%未満。							
		安全教育・防災教育を推進し安全意識・防災意識の向上を図る。	①安全指導・避難訓練を月に1回ずつ定期実施。 ②セーフティ教室・災害安全講演の実施。	4 計画的・効果的な安全指導を十分に実施。	4	4 「安全や健康の知識を生かしている」90%以上。	4	4 " ~80%以上。	3	生徒は 約77%が肯定的 であった。災害時に直結する指導がやや不足していた。	引き続き実生活につながる指導が必要。	B	学校だけでなく家庭でのあらゆる災害を想定した指導を行う。
				3 " おおむね実施。		3 " ~80%以上。							
				2 " 半分程度実施。		2 " ~70%以上。							
				1 " あまりできていない。		1 " 70%未満。							
輝く未来	学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係を築き、生徒一人一人に応じた指導・支援を図る。	3年間の系統だったキャリア教育の実施から、夢や目標に向けて努力する力を養う。	①適切な進路指導計画の作成。 ②計画的で丁寧なキャリア教育の推進。	4 3年間の計画的な進路指導を十分に実施。	3	4 「得意や向いていることを考えている」90%以上。	3	生徒は 約78%が肯定的 であった。自分を見つめきれない生徒が若干見られる。	総合学習発表会の質をより向上させることが必要。	B	得意なこと、夢中になること、喜びを感じるなどから自己を見つめさせた進路指導を行う。		
				3 " おおむね実施。		3 " ~80%以上。							
				2 " 半分程度実施。		2 " ~70%以上。							
				1 " あまりできていない。		1 " 70%未満。							
		自治的で成長につながる学校行事を行う。	①リーダー中心の主体性を重視した活動の実施。	4 行事で生徒の主体性を育む指導を十分に実施。	3	4 「楽しく学校生活を過ごしている」90%以上。	3	4 " ~80%以上。	4	生徒は 約86%が肯定的 であった。生徒主体の活動の充実が成果として現れている。	生徒の評価が教師を上回り、とても良い。	A	生徒会を中心とした活動をより支援していく。
				3 " おおむね実施。		3 " ~80%以上。							
				2 " 半分程度実施。		2 " ~70%以上。							
				1 " あまりできていない。		1 " 70%未満。							

学校教育目標	○希望 ○創造 ○潤い	【目指す学校像】	○生徒が生き生きとして、自尊感情を高め、心を開ける学校○生徒・保護者・地域の願いに応え、ともに歩む学校○生徒・保護者・地域・教職員が安心でき、信頼し、躍進できる学校
		【目指す児童・生徒像】	○自ら学び、自ら考える生徒 ○他を思いやり、支え合う生徒 ○責任をもち、やりぬく生徒
		【目指す教師像】	○生徒を第一に考え、生徒の良さを伸ばす教師○自己の資質向上と健康管理に努める教師○和、礼、法を重んじ、信頼される教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	確かな学力の定着を図るために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善を進める。	言語活動や協働学習を通した深い学びにつながる指導を実践する。	授業で、「つかむ・考える・広げる・深める」4ステップ授業を定着する。	4 深まりにつながる4ステップ授業を行った 3 「深める」ための授業の工夫を行った 2 主体的に対話的な授業の工夫を行った 1 個と集団を意識した授業を行った	3	4 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が90%以上 3 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が75%以上 2 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が50%以上 1 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が50%未満	3	ICT機器の活用し全教職員が授業改善を行った。深まるようなファシリテートや協働的な活動が増えた。	ICT機器の活用で、深い学びにつながるように指導してほしい。	B	指導実践を重ねる。内容の理解だけでなく個→集団→個のサイクルを行えるようにする。
		考えを深めるための読解力と表現力を身に付けさせる。	国語科を中心に、読む・書く時間を確保するとともに、発表活動を充実させる。	4 深く読み、表現する授業を毎時間展開した 3 深く読み、表現する授業を7割以上行った 2 授業では自分の考えを書く 1 授業では読むことと書くことを大切にしたい	3	4 考え発表する体験が多いと感じた生徒が80%以上 3 考え発表する体験が多いと感じた生徒が65%以上 2 考え発表する体験が多いと感じた生徒が40%以上 1 考え発表する体験が多いと感じた生徒が40%未満	3	考察し、表現する体験は教科等横断的に行った。自分の考えを言語化する活動をさらに取り入れる。	今後、読解力と表現力を身に付けることは必要なので、取り入れてほしい。	B	協働学習や発表などの学習活動の機会を増やす。家庭での予習等学習意欲を向上させる。
		主体的な学習習慣を基に、主体的に学びに向かう態度を醸成する。	授業のねらいと振り返りを行い、自ら意欲をもって授業や家庭学習を主体的に取り組む。	4 毎時間の振り返りを次時に生かす指導を行った 3 毎時間のねらいと既習事項を関連付けた振り返りを行った 2 毎時間ねらいを示し、振り返りを行った 1 授業のねらいと振り返りを時々行った	3	4 主体的な学習習慣が定着した生徒が90%以上 3 主体的な学習習慣が定着した生徒が80%以上 2 主体的な学習習慣が定着した生徒が50%以上 1 主体的な学習習慣が定着した生徒が50%未満	3	主体的な活動を継続している。ねらい、振り返り、自由勉強ノートを活用し、家庭学習に取り組ませた。	家庭学習の時間が短いため、家庭学習の定着を取り組んでほしい。	B	思考の深まりを見取ることができる指導の充実を図る。生徒が選択できる学習教材を充実させる。
豊かな心	自己有用感を高めることで自尊感情を育み、お互いを大切に尊重できる人間関係を構築する。	考え、議論する道徳授業を実践し、よりよく生きる心を育てる。	全教職員が道徳授業を行う。全教科で内容項目に関連付けて指導する。	4 生徒が考え、気付きのある発問を工夫した 3 教材解釈と教材の工夫を十分に行った 2 計画通りに22の内容項目を全て扱った 1 自分で教材理解をして年間35時間行った	3	4 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が80%以上 3 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が70%以上 2 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が50%以上 1 自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が50%未満	3	全教職員の道徳科の実践、ICTを活用し生徒の意見を可視化することで意見交換が活発になった。	道徳授業により、生徒がより考え、議論することで、自分が育つように指導してほしい。	B	道徳性の伸長において議論の深まりを重点にし、自分の事を考える時間、向き合う時間を設ける。
		一人一人を大切に尊重し、努力を認めて褒めることで自尊感情を育む。	傾聴、共感、認める、助言、実行、賞賛する生徒育成サイクルによる指導を実践する。	4 生徒育成サイクル指導の実践が定着した 3 傾聴、共感、認めるから助言につなげた 2 傾聴、共感をし、認める努力をした 1 傾聴せずに、すぐ指導・説諭をする	3	4 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が90%以上 3 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が85%以上 2 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が50%以上 1 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が50%未満	3	生徒会活動や学活等の活動を通して自主的な取組を重ねた。表情が明るい生徒の姿が見られた。	傾聴、共感、認めることによって、一人一人を大切にできる人間関係を築けるように指導してほしい。	B	特別活動等で生徒が自律的、自治的に活動できる指導を充実させ、生徒の自己有用感を高める。
		気持ちよい挨拶や返事を通して、お互いが快適に過ごせる人間関係を築く。	自らすすんで挨拶や返事をする習慣を身に付けさせる。	4 学校内外では教員自ら挨拶や声かけを行った 3 学校生活での挨拶・返事の指導を徹底した 2 計画通りに22の内容項目を全て扱った 1 挨拶・返事の指導を時々行った	3	4 学校内外で、すすんで挨拶できる生徒が80%以上 3 学校内で、挨拶・返事ができる生徒が80%以上 2 学校内で、挨拶・返事ができる生徒が50%以上 1 学校内で、挨拶・返事ができる生徒が50%未満	3	各学年で挨拶の励行ができていて、積極的に挨拶できる生徒が増えたが、さらに率先してできる環境を整えてほしい。	学校内外で、将来のためにも自ら進んで挨拶・返事ができるよう指導を続けてほしい。	B	場に応じた言葉遣いや挨拶等ができるよう指導を重ねる。自ら声をかけ、生徒の見本となっていく。
健やかな体	自らの生活を健康的で健全にするために、体力向上を図り、規則正しい生活を送る。	年間を通して健康に過ごすための基礎体力・持久力の向上を図る。	一人一人に体力向上における目標を設定させ、主体的に運動する習慣を身に付ける。	4 一つ一つの運動の効果や取組方法を徹底指導した 3 体力向上のために個に応じた方法を指導した 2 体力向上の意義と取組方法を指導した 1 体力向上のための指導した	2	4 運動を主体的に取り組む生徒が90%以上 3 運動を主体的に取り組む生徒が70%以上 2 運動を主体的に取り組む生徒が50%以上 1 運動を主体的に取り組む生徒が50%未満	3	目標設定や運動が苦手でも主体的に取り組める授業環境を作ったが運動へのつながりはまだ弱い。	運動することの大切さや意義を伝えながら運動は楽しいということを指導してほしい。	B	校内企画で生徒が運動できる機会が増えるよう活動を設けなど、主体性の伸長を図る。
		食事や睡眠を大切に、自らの健康増進に努める生徒を育てる。	栄養士と食への取り組みを行い、保護者には早寝・早起き・朝ご飯の協力を求める。	4 学級で食の大切さと残さず食べる指導を徹底した 3 学級で食の大切さと残さず食べる指導をした 2 学級で残さず食べる指導に取り組んだ 1 学級で食育指導を定期的に行った	3	4 学んだ知識を生活に活かしている80%以上 3 学んだ知識を生活に活かしている70%以上 2 学んだ知識を生活に活かしている60%以上 1 学んだ知識を生活に活かしている60%未満	3	GM60分を活用し生徒・保護者に生活リズム改善を啓発した。栄養士と連携し食への意識を高めた	基本はまず家庭での食事や睡眠と考えられるので家庭の協力と学級での食育を継続してほしい。	B	GM60分の継続。栄養の摂取を通じた健康の保持や体の成長を栄養士と連携して進める。
		SNSの利活用について考え、規則正しい生活を送らせる。	SNS学校ルール、家庭ルールの作成・定着を図る。	4 SNSルールの徹底を家庭に指導した 3 SNSルールを学級で指導・徹底した 2 SNS家庭ルールの作成を学級で指導した 1 SNS学校ルールを学級で指導した	3	4 SNSルールを意識している生徒が80%以上 3 SNSルールを意識している生徒が60%以上 2 SNSルールを意識している生徒が50%以上 1 SNSルールを意識している生徒が50%未満	3	安全指導やセーフティ教室、教科等の指導を通じて、意識の醸成と定着を図った。	SNSの活用と危険性を学ぶ機会を作り、学校ルール・家庭ルールのもと指導を続けてほしい。	B	面談等を通して話題に挙げていく。長期休業前など、SNSルールについて定期的に確認する。
輝く未来	家庭・地域との連携を進め、将来にむけて確かな夢をもてるような人格形成を図る。	家庭・地域との信頼関係を深めるために情報発信を行い、意見を求める。	学校・学年だよりの発行、ホームページの更新を毎月行い、読者意見に丁寧に対応する。	4 毎月発行・更新し、地域からの意見に対応した 3 学校・学年だよりとHP更新は毎月1回以上行った 2 学校・学年だよりは毎月1回以上発行した 1 学校だよりは毎月1回以上発行した	3	4 学校の教育活動に安心している保護者が90%以上 3 学校の教育活動に安心している保護者が80%以上 2 学校の教育活動に安心している保護者が60%以上 1 学校の教育活動に安心している保護者が60%未満	3	学校便り、学年便りの定期的な発行を行った。進路だよりを月1回程度発行し情報発信を行った。	引き続き学校便り・学年便り等により、家庭・地域に情報発信してほしい。	B	発信を継続し、内容の充実を図る。生徒の様子をよく見て教員・家庭で連携できるようにしていく。
		キャリア教育によって夢をもち、実現に向けて努力する生徒を育成する。	総合的な学習の時間及び進路学習を通して、将来について具体的に考えさせる。	4 将来の夢の実現に向けた計画づくりを指導した 3 将来の自分を考えさせる指導を行った 2 自分の良さや適正を知る指導を行った 1 働く意義や職業について考えさせる	3	4 夢に向けてキャリアプランを作った生徒が55%以上 3 将来の夢を具体的に考えた生徒が80%以上 2 将来の夢を見付けるために進路学習を行った 1 将来の夢を見付けるために進学先を考えた	3	総合的な学習の実践、発達段階に応じた実践を通して、生徒が将来を描けるように働きかけた。	全学年を通して、非常に大切な体験をしながら人との関わりを深めてほしい。	B	分掌が中心となり組織的かつ体系的な実践を進める。将来の夢を叶えるためのステップを考えさせる。
		9年間を見通した計画的な指導を行い、地域との関わりを深めていく。	福島中グループの小中連携教育における3つのスタンダードを定着する。	4 スタンダードを周知・徹底し、小学校との実践を深めた 3 スタンダードを徹底するために家庭協力を求めた 2 スタンダード定着に向けクラスで指導・徹底した 1 スタンダードの内容を生徒に理解させた	2	4 スタンダードを実践し定着した 3 スタンダードを生徒・家庭が実践した 2 スタンダードを家庭が理解できた 1 スタンダードを生徒が理解できた	3	学習面や生活面についての意見交換や家庭学習ができるよう宿題の明確な指示などを行った。	小学校のうちからスタンダードを周知し、連携をとりかわりを深めてほしい。	B	積極的に情報交換を行う。小学校からの引き継ぎを実践する。生活習慣や家庭学習の定着を連携。

令和7年度沼島市立瑞雲中学校 学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価(総括表)

学校教育目標	すすんで学習に励む生徒 たくましい体力を身につけた生徒 規律と礼儀を重んじる生徒 すすんで働き、協力しあう生徒	【目指す学校像】 ・真面目に努力する生徒が生き生きと活躍できる学校 ・自主・自立の精神を培うことができる学校 ・生徒・保護者・地域・教職員が誇りをもてる学校
	【目指す児童・生徒像】 ・すすんで学習に励む生徒・たくましい体力を身につけた生徒・規律と礼儀を重んじる生徒・すすんで働き、協力しあう生徒	
	【目指す教師像】 ・親切、丁寧、コミュニケーション重視・全員一丸での組織対応・認めて褒める指導・チェックと改善・教育公務員の自覚・ライフワークバランス	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策		
確かな学力			全ての生徒に義務教育終了時に必要な基礎学力を定着させる学力保証の取組の充実	指導方法の工夫改善	ねらいの明示、導入の工夫、振り返り、授業評価を授業で実践する	4 自己評価4段階平均値3.7以上	4 90%以上の生徒が先生方は授業を工夫していると回答	3	・授業のはじめにねらいを明示し、プリントやノートに書かせることで、授業内にいつでもねらいを確認できるようにした。導入では前時の振り返りとして、口頭試問や動画視聴、小テストを行い、基礎学力の定着を図った。	・授業参観等を通じて、教諭の皆様の日頃の取り組みを拝見し、大変素晴らしいと感じております。教諭によってクラスの雰囲気には違いはありますが、それぞれの個性が活かされており、良い取り組みであると感じました。 ・各教室を巡回すると授業の始まるの時に今日の授業の内容を話す先生を少しずつ見かけるようになった。一番大事な基礎学力を付ける為には最善の方法と考える。 ・成果指標で生徒の評価が高く感じました。 ・学校が落ち着いたこともあり、授業準備に十分に取組めているため、授業の工夫がされていてとても素晴らしいと思います。今後も生徒の興味を刺激するような授業を行ってほしいと思います。	B	・生徒一人一人がねらいを理解し学習を進めることができるように、個に配慮したより具体的な明示の方法を工夫していく必要がある。	
				学習意欲の向上と家庭学習の充実	『家庭学習の記録』、『タブレット』を活用し、宿題の出し方を工夫し、家庭学習を定着させる	4 自己評価4段階平均値3.7以上	4 70%以上の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答						3 90%～90%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答
豊かな心			多様な価値観の中で自身の判断力を磨き、心豊かに主体的に正しい判断をし行動できる育成を目指す指導の充実	生徒の主体的活動の充実	生徒の心に寄り添った生活指導や道徳教育を充実させる	4 自己評価4段階平均値3.4以上	4 90%以上の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答	3	・生徒一人ひとりに寄り添い、傾聴して話しを聞くことができた。また、生徒に選択肢を与えるなど生徒が自己決定し、活動を行う機会を多くつくった。	・授業参観等を通じて、教諭と生徒のやり取りを拝見させていただき、生徒一人ひとりが持っている力や考えを引き出そうとされている点が、とても良い取組みであると感じました。 ・学校公開週間に道徳授業などで5～6人の小グループに別れて進めているのを良く拝見する。少人数だと普段あまり意見を言わない生徒も言えるようになる良い方法だと考える。 ・様々な情報、誘惑が多方面から入ってくる時代で、個人個人が善悪を正しく判断することが増々重要になってきます。考える機会を多く作ったことは評価します。90%以上の生徒が身に付いたと解答できるよう期待します。	B	・道徳に関して、話し合ったりする活動時間を今より確保し、考えを深化させたり、話し合いの活動をさらに活発化させる。自身の役割に対して振り返る作業を充実させる。学級で頑張りを認め合う活動を更に充実させる。	
				生徒の主体的活動の充実	教育活動に他者と関わりながら主体的に判断する内容を取り入れる	4 自己評価4段階平均値3.6以上	4 90%以上の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答						3 90%～90%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答
健やかな体			生き生きと豊かな社会生活を送るための基礎体力を身に付けさせる健康教育と体力向上の推進	基礎体力の向上	体育の授業や部活動、行事などを通じて基礎体力を向上させる	4 自己評価4段階平均値3.1以上	4 90%以上の生徒が体力が身に付いてきたと回答	3	・部活動で体力向上を促すための運動や目標設定を行い、体力向上を促した。補強運動を通して、基礎体力を向上させた。また、体育の授業において競技にあった補助運動を取り組んだ。	・各部活が日頃から頑張り、成果につながっていることが何よりうれしいです。関係者の皆様のご尽力に感謝します。 ・体育の授業では体力向上の基本でもある「走り」を良く取り上げて行っていると思う。部活においては毎年1月行われる新春沼島市駅伝競走大会に市内中学校の中で常に最多の参加チームを出場させている。 ・新春駅伝大会では多くの生徒が参加し、元気な姿を見れて指導の成果を目の当たりにしました。 ・経験や体力に関係なく、誰でも入部しやすい雰囲気が良いと感じる。それぞれに合った場所や方法で、体力向上を促すことができています。	A	・スモールステップを意識して、全員が躓くことのない運動を取り入れていく。基本的な生活習慣を大切にしたい指導を今後とも行っていく必要がある。	
				健康・安全に関する指導の充実	各学年・学級で状況に応じた健康・安全に関する日常的な指導を実施する	4 自己評価4段階平均値3.7以上	4 90%以上の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答						3 90%～90%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答
輝く未来			自己を見つめ自らの生き方を考え、変化の激しい社会を生き抜く力を身に付ける生涯学習の視点からの進路指導の充実	進路指導の充実	生徒や保護者に寄り添い、親切丁寧な進路指導を実施する	4 自己評価4段階平均値3.7以上	4 90%以上の生徒が先生方は適切にアドバイスをする	3	・三者面談の際に、学校生活への不安感や困り感、学習・進路についての相談に応じた。教員間で情報を共有して、複数で対応している。進路希望に沿って保護者の親身になって面談を実施することができた。	・進路指導も本年度も円滑に進められており、教職員の皆様が一人ひとりの進路に真摯に向き合っておられることが伝わってきました。また、保護者や生徒の気持ちに寄り添い丁寧に的確に三者面談を進めています。 ・生徒本人より、保護者が進路等に心配不安を抱えていることが多いように思います。三者面談などを通じ不安を取除けるよう指導をお願いします。 ・進路指導は毎年変わる部分があり大変かと思いますが丁寧な指導をお願いします。ご家庭により積極的にいかかわらない保護者に対する相談にも根気よく乗っていただきたいです。また、高校入学が目的ではなく、高校三年間生徒が充実して過ごせる事が大前提です。生徒一人一人にあった進路指導をお願いします。 ・面談以外の方法でも、普段の学校の様子や活躍などの小さな出来事をこまめに発信していくことで、家庭では気付くことのできない生徒の得意に気付かせることができ、進む道を広げることができると感じる。	B	・進路学習指導を通じて、生徒が自分の進路に向き合う態度を育成する。生徒の学力や個別状況に応じた指導を行っていくだけでなく、将来をみすえた進路の話もできるように面談の内容を計画する。	
				系統的な生き方指導の充実	三年間を通じて自己を見つめ、社会を知り、将来を考える指導を系統的に行う	4 自己評価4段階平均値3.9以上	4 90%以上の生徒が自分の将来について考えることがあると回答						3 90%～90%未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答

学校教育目標	人権尊重の精神を基調として、社会において信頼される人間性豊かな生徒の育成を目指す	【目指す学校像】	生徒にとっても教職員にとっても、さらには家庭・地域にとっても「楽しく」、「学び、集い、あえる」学校 1、学校は「成長を実感できる場」 2、学校は「自己実現できる場」 3、学校は「夢や機能をはくむ場」 4、学校は「安心して安全に生活できる場」 5、学校は「『意外性』と『多様性』を生かしていく場」
		【目指す児童・生徒像】	「豊かに、たくましく そして 創造的」な生徒
		【目指す教師像】	115歳の生徒の姿に責任をもつ教師1、生徒一人一人を大切にする教師 2、1時間1時間の授業を大切にする教師 3、生徒・家庭・地域から信頼される教師 4、「和」を重んじ、チームのために自己の力を発揮できる教師 5、清泉中を受容する教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策					
確かな学力	基礎的・基本的な知識や技能の習得 思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学ぶ態度の育成と学習意欲の向上を図る。	自分の考えを生かす「学び」がある	・学級・授業における考えを発表する場の設定 ・学年、学校全体での発表会の設定	4 自己評価4段階平均値3.8以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満	4	4 80%以上の生徒が肯定的な回答 3 70%以上の生徒が肯定的な回答 2 60%以上の生徒が肯定的な回答 1 60%未満の生徒が肯定的な回答	4	生徒が「話し合いや意見発表へ進んで参加している」ことへ肯定的な意見が、91.9%であり、校内の研究の成果が定着している。	A	件年度の研究成果及び課題を踏まえ、小学校から学力向上に向けた取組が必要。生徒が取り残されないようサポートが必要である。	・件年度の研究成果及び課題を踏まえ、小学校から学力向上に向けた取組が必要。生徒が取り残されないようサポートが必要である。					
		個別最適な学びがある	・ICTの効果的な活用 ・学習教室、自主教室 ・指導方法の開発	4 自己評価4段階平均値3.8以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満		3		4 90%以上の生徒が肯定的な回答 3 80%以上の生徒が肯定的な回答 2 70%以上の生徒が肯定的な回答 1 70%未満の生徒が肯定的な回答				3	学習者自身がタブレット端末の学習効果について86%の肯定的な意見がある。しかし、授業者によって活用する頻度も異なる。継続して推進する。	A	ICTの効果的な活用の推進 ・学習教室、自主教室の計画的な実施 ・校内研究をふまえた指導方法の開発の継続	
		つまづきをチャンスに次の手立てを考える「学び」がある	・GOALの明確化 ・プロセス評価 ・自己調整をする機会	4 自己評価4段階平均値3.5以上 3 自己評価4段階平均値3.3以上 2 自己評価4段階平均値3.1以上 1 自己評価4段階平均値3.1未満				3					4 80%以上の生徒が肯定的な回答 3 70%以上の生徒が肯定的な回答 2 60%以上の生徒が肯定的な回答 1 60%未満の生徒が肯定的な回答			3
豊かな心	落ち着いた学校生活の実現を図るとともに、自尊感情や自己肯定感を高め、豊かな心の育成を図る。	規範意識のある自己肯定感、自己有用感を醸成する	・ルールを生徒自らが考え、守る活動を実施 ・マナーを考え人との関わりの中で自己の役割を理解する学びの充実	4 自己評価4段階平均値3.8以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満	4		4 80%以上の生徒が肯定的な回答 3 70%以上の生徒が肯定的な回答 2 60%以上の生徒が肯定的な回答 1 60%未満の生徒が肯定的な回答		3	生徒発信の企画する機会が増え、教員がファシリテーターとしての役割が増えてきた。教職員全体のファシリテーション力の向上のために推進が必要である。	A		自己肯定感環境に影響されていることもある。			
		生徒との対話(非言語も含む)を通じて、生徒理解を図る	・給食や清掃の時間等の生徒とのコミュニケーションを重視 ・QU等データの活用	4 自己評価4段階平均値3.8以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満		4	4 80%以上の生徒が肯定的な回答 3 70%以上の生徒が肯定的な回答 2 60%以上の生徒が肯定的な回答 1 60%未満の生徒が肯定的な回答			4		普段より、対話を大切にすること、生徒の思いや考えを聴く対応により「楽しく学校を過ごしているか」というアンケートに94.4%の肯定的な意見につながっている。	A	授業において、生徒がよく話すようにしている。また、話を聞かせるようにも指導されている。	・教育活動を通して生徒間同士コミュニケーションの推進 ・生徒理解にむけ、定期的なWebQUの活用	
		校内の言語環境を重視する	・人権教育を推進 ・道徳の授業の充実 ・校内の言語環境の整備	4 自己評価4段階平均値3.8以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満			3	4 80%以上の生徒が肯定的な回答 3 65%以上の生徒が肯定的な回答 2 50%以上の生徒が肯定的な回答 1 50%未満の生徒が肯定的な回答				3		各教科の授業において、生徒同士が対話を意識することで、言語環境について重視する意識が高まっている。		B
健やかな体	心身ともにたくましく、健やかな生徒の育成を図る。	体を動かすことが好きという気持ちを醸成する	・自治的活動の重視 ・特別活動の重視	4 自己評価4段階平均値3.8以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満	3			4 80%以上の生徒が肯定的な回答 3 65%以上の生徒が肯定的な回答 2 50%以上の生徒が肯定的な回答 1 50%未満の生徒が肯定的な回答	2		体育委員会が中心となり昼休み体育館開放や学年レクが定着しているが、アンケート結果は60%となり、生徒が楽しんで体を動かすための検討が必要である。			B		
		食の大切さを理解し、実践する姿勢を育む	・自治的活動の重視 ・献立コンクールの実施	4 自己評価4段階平均値3.6以上 3 自己評価4段階平均値3.4以上 2 自己評価4段階平均値3.2以上 1 自己評価4段階平均値3.2未満		4		4 80%以上の生徒が肯定的な回答 3 65%以上の生徒が肯定的な回答 2 50%以上の生徒が肯定的な回答 1 50%未満の生徒が肯定的な回答		3	給食・お弁当の日・献立コンクール・お弁当作り・給食の残菜率測定を実施することで、生徒が食について考える機会が増えた。		A		献立コンクールの取組について意欲的である。家庭科での取組が実生活と学びのリンクになっている。	
		何事にもあきらめない心の醸成	・スモールステップを意識した課題の設定	4 自己評価4段階平均値3.5以上 3 自己評価4段階平均値3.3以上 2 自己評価4段階平均値3.1以上 1 自己評価4段階平均値3.1未満			3	4 80%以上の生徒が肯定的な回答 3 70%以上の生徒が肯定的な回答 2 60%以上の生徒が肯定的な回答 1 60%未満の生徒が肯定的な回答			3	「自己の生活を振り返り、よくなった」という肯定的な意見が92%であり、生徒自身の主体的な活動の結果を踏まえ、改善を考える思考が定着してきた。			B	楽しんで学ぶ姿勢が大切。生徒達は、興味がそそられる事があれば、自ら進んで学んでいく。
輝く未来	生徒一人ひとりの夢と希望を育むために、3年間の見通しに立った進路指導の実現を図る。	生徒自身が自分の可能性やよさ(強み)を考える機会を充実する	・貢献活動の充実 ・キャリア教育の充実 ・職場体験の実施	4 自己評価4段階平均値3.8以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満	4			4 90%以上の生徒が肯定的な回答 3 75%以上の生徒が肯定的な回答 2 60%以上の生徒が肯定的な回答 1 60%未満の生徒が肯定的な回答	3			「自分の得意なこと」「向いていること」について考えることについて肯定的な意見が86%あり教育活動を通して自身と向き合う機会を設定している。		A		昭島市総合防災訓練の生徒参加・交通ルールへの呼びかけ等、生徒が自ら進んで取り組めたことがよい。
		「何のために」を意識する「学び」がある	・SDGsの学びの重視 ・生き方探究学習の実施	4 自己評価4段階平均値3.8以上 3 自己評価4段階平均値3.6以上 2 自己評価4段階平均値3.4以上 1 自己評価4段階平均値3.4未満		4		4 90%以上の生徒が肯定的な回答 3 80%以上の生徒が肯定的な回答 2 70%以上の生徒が肯定的な回答 1 70%未満の生徒が肯定的な回答		4		各学年においてSDGsの視点を取り入れた教育活動を実施しており、生徒・教職員の意識が高まっている。	A			1・2年生では、地域のゴミ拾いを実施3年生では、各自がテーマを決めてSDGsに取り組む学びがよい。
		体験活動や地域人財(材)とふれあい、学ぶ機会がある	・コミュニティ・スクールの利点を生かしたプログラムの実施 ・行事の見直し	4 自己評価4段階平均値3.5以上 3 自己評価4段階平均値3.3以上 2 自己評価4段階平均値3.1以上 1 自己評価4段階平均値3.1未満			2	4 80%以上の生徒が肯定的な回答 3 70%以上の生徒が肯定的な回答 2 60%以上の生徒が肯定的な回答 1 60%未満の生徒が肯定的な回答			-	学校運営協議会で教育課程について協議し、その内容を次年度に反映している。			A	地域の方の話を聞く会はよい取組である。また、職場体験を通して進路を考えたい必要がある。

学校教育目標	勉学	よく考え正しく判断できる人	ビジョン	【目指す学校像】	(1) 自ら課題を解決する姿勢の育成(2) 共生的な態度の育成(3) 地域・保護者に信頼され、ともに歩む学校
	敬愛	人を敬愛し愛と慈しみのある人		【目指す児童・生徒像】	(1) 主体的に学ぶ生徒(2) 言葉を通して関係をよりよくなる生徒(3) 自分自身を調整する生徒(4) 未知の状況に対応できる生徒
	至誠	誠実で責任感の強い人		【目指す教師像】	(1) 温かく厳しく指導する教師(2) 工夫と改善を心がける教師(3) 服務に厳正な教師
	健康	健康で心身ともにたくましい人			

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎的・基本的な知識や技能の習得及び思考力・判断力・表現力等の育成	目標の明示と振り返りの工夫から指導と評価の一体化や授業改善を図る	学習目標を提示し、振り返りを工夫することで、理解を深める	4 授業の流れを明示し、振り返りを工夫した(9割) 3 授業の流れを明示し、振り返りを工夫した(8割) 2 授業の流れを明示し、振り返りを工夫した(5割以上) 1 授業の流れを明示し、振り返りを工夫した(5割未満)	3	4 授業の流れを明示し、振り返りを工夫した(9割) 3 授業の流れを明示し、振り返りを工夫した(8割) 2 授業の流れを明示し、振り返りを工夫した(5割以上) 1 授業の流れを明示し、振り返りを工夫した(5割未満)	4	生徒アンケートにおいて肯定的な回答が90%と目標の提示と振り返りの工夫ができています。	教員は指導の仕方、教材など色々工夫している。	A	取組指標では、85%以上実践と回答した割合が92%であった。引き続き90%以上を目指す。
		思考力・判断力・表現力等の育成	書くこと、話し合うこと、発表すること、ICTの活用等により、思考力等を育成する	4 思考力等を育成する活動をした(9割) 3 思考力等を育成する活動をした(8割) 2 思考力等を育成する活動をした(5割以上) 1 思考力等を育成する活動をした(5割未満)	4	4 思考力等を育成する活動をした(9割) 3 思考力等を育成する活動をした(8割) 2 思考力等を育成する活動をした(5割以上) 1 思考力等を育成する活動をした(5割未満)	3	考えを発表する機会があると回答した生徒が84.4%と思考力を育成する活動を行っている。	静かに集中して授業を受けているようにみえるが、興味、意欲を感じられなかった。	C	ICTの活用を取り入れながら、言語活動の充実を図る。
		主体的に学習に取り組む態度の育成と家庭学習の定着	「学習の手引き」の活用や各教科からの課題を通じた学習習慣の育成	4 学習習慣を定着させる指導の実施(9割) 3 学習習慣を定着させる指導の実施(8割) 2 学習習慣を定着させる指導の実施(5割以上) 1 学習習慣を定着させる指導の実施(5割未満)	4	4 家庭学習の習慣がついた(9割) 3 家庭学習の習慣がついた(8割) 2 家庭学習の習慣がついた(5割以上) 1 家庭学習の習慣がついた(5割未満)	2	週5日以上学習している生徒は34%にとどまった。特に1,2年生の家庭学習習慣の定着に課題がある。	学校側からサポートできることは十分行われている。掲示物からは生徒の学習に取り組む姿勢や意欲が伝わってくる。	C	各教科から課題を出したり、家庭学習ノートを活用するなど、学校体制で取り組んでいく。
豊かな心	他を思いやる心を持ち、適切な判断ができる生徒の育成	人権尊重を重視する視点から、生命の尊重と共生の姿勢を育成する。	「人権教育プログラム」の活用や環境(言語、文章、掲示物等)の整備	4 人権感覚の育成に努めた(9割) 3 人権感覚の育成に努めた(8割) 2 人権感覚の育成に努めた(5割以上) 1 人権感覚の育成に努めた(5割未満)	4	4 人を思いやる心が身に付いた(9割) 3 人を思いやる心が身に付いた(8割) 2 人を思いやる心が身に付いた(5割以上) 1 人を思いやる心が身に付いた(5割未満)	4	98.3%の生徒が思いやる行動がとれたと回答したが、他者への配慮が不足している場面も見られる。	集団生活で人権尊重や他者理解などを学び、生徒間で課題を見つけたり、第三者に相談して解決する手段も身に付けておくとよい。	B	集団生活の中で他者への配慮が必要な場面を振り返らせ、日頃から意識して行動できるよう指導する。
		他者理解を心がけ、人間関係における課題を見つけ、解決する生徒の育成	学級活動、学校行事、生徒会活動等における人間関係の構築	4 生徒が協力して活動する場面が見られた(9割) 3 生徒が協力して活動する場面が見られた(8割) 2 生徒が協力して活動する場面が見られた(5割以上) 1 生徒が協力して活動する場面が見られた(5割未満)	4	4 行事等で協力して活動することができた(9割) 3 行事等で協力して活動することができた(8割) 2 行事等で協力して活動することができた(5割以上) 1 行事等で協力して活動することができた(5割未満)	4	積極的に指導した100%、協力して取り組めた95%と、非常によく協力することができている。	行事の経験でお互いを認め合い、尊重し、協力するということが学べている。全体的に仲がよさそうであった。	A	引き続き生徒が主体となって取り組む学級活動、学校行事、生徒会活動を実践していく。
		考え、議論する道徳の授業を実践し、よりよく生きる心を育てる。	内容項目に即した発問や話し合い活動の工夫	4 発問や話し合い活動の工夫をした(9割) 3 発問や話し合い活動の工夫をした(8割) 2 発問や話し合い活動の工夫をした(5割以上) 1 発問や話し合い活動の工夫をした(5割未満)	3	4 道徳の授業で自分の考えが深まった(9割) 3 道徳の授業で自分の考えが深まった(8割) 2 道徳の授業で自分の考えが深まった(5割以上) 1 道徳の授業で自分の考えが深まった(5割未満)	4	96%の生徒が話し合いを通して考えが深まったと回答しており、話し合い活動を通じ考えを深めることができた。	他人への思いやりと他者の立場に立った想像力の涵養を図っていく必要がある。哲学、倫理学に基づく道徳教育の充実を図ることが重要。	B	発問を工夫し、話し合いを通して考えを深める道徳を実践して、より良く生きる心を育てる。
健やかな体	心身ともにたくましく、健やかな生徒の育成を図り、健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を養う。	体育的活動等における事故の防止	授業、行事、部活動等における事故の未然防止(不適切な指導の根絶)	4 事故の未然防止に努めた 3 2 1 事故を未然に防止できなかった	4	4 事故(問題)は、なかった 3 2 1 事故(問題)があった	1	未然防止に努めたが事故があった。	身体を動かすのは楽しい、機敏な動作は生活に必要と前向きに取り組めるよう情報を発信してほしい。	B	事故の未然防止と事故が起きてしまった場合に適切な対応ができるよう研修を充実させる。
		学校内外での事故の防止	交通事故や不審者被害防止に向けた指導	4 事故(被害)の未然防止に努めた 3 2 1 事故(被害)を未然に防止できなかった	4	4 事故(被害)は、なかった 3 2 1 事故(被害)があった	1	未然防止に努めたが事故があった。	安心安全な環境作りのために冷暖房は欠かせない。今後も市への要望を続ける。	B	交通事故や不審者被害の防止に向けた指導をしていく。
		SNSの活用について考え、規則正しい生活を送らせる。	SNS学校ルール、家庭ルールの定着を図る。	4 SNSルール(学校、家庭)を理解している(9割) 3 SNSルール(学校、家庭)を理解している(8割) 2 SNSルール(学校、家庭)を理解している(5割以上) 1 SNSルール(学校、家庭)を理解している(5割未満)	4	4 SNSの使用に問題(トラブル)がなかった 3 SNSの使用に問題(トラブル)がほとんどなかった 2 SNSの使用に問題(トラブル)が時々あった 1 SNSの使用に問題(トラブル)が度々あった	4	なかった、ほとんどなかったで97%あった。SNSはトラブルが大きくなる傾向があるため、日頃の指導が必要である。	事故防止の注意喚起を行うとともに、チームやクラスの共同作業の実践を深めていくとよい。	B	セーフティ教室等を通してSNSの活用について考えさせる。家庭にも情報を発信し、協力を得る。
輝く未来	生徒が自らの将来に向けて希望をもって卒業する。	キャリア教育の計画的な推進と夢の実現に向けて努力する生徒の育成	適切な進路指導計画の作成等とキャリア・パスポートの活用	4 生徒が主体的に取り組めるように指導した(9割) 3 生徒が主体的に取り組めるように指導した(8割) 2 生徒が主体的に取り組めるように指導した(5割以上) 1 生徒が主体的に取り組めるように指導した(5割未満)	4	4 進路の選択について、主体的に取り組んだ(9割) 3 進路の選択について、主体的に取り組んだ(8割) 2 進路の選択について、主体的に取り組んだ(5割以上) 1 進路の選択について、主体的に取り組んだ(5割未満)	3	2,3年生は主体的に取り組めているが、1年生の進路実現に対する意識を高めていくことに課題がある。	学校として新しい情報を得る努力が必要。将来への目標と、目指すべきキャリアへの展望もてるよう指導を継続してほしい。	C	キャリア・パスポートや自己チェックリストを活用し進路の実現に向け努力する生徒を育成する。
		いじめの未然防止や早期解決に努めるとともに、個に応じた不登校対応を行う。	「学校いじめ対策の日」、早期発見、スクールカウンセラー等との連携の実施	4 適切に行った 3 2 1 適切に行うことができなかった	4	4 問題は、なかった 3 2 1 問題があった	1	いじめを相談することができなかつたと答えた生徒が2%いた。注意深い生徒観察と、相談できる環境づくりが必要である。	どんな生徒も自己肯定感をもてるよう取り組んでほしい。先生方は頑張っている。	A	早期発見に努める。いじめ対策委員会を中心とし、全校体制で適切な対応に努める。
		生徒理解に基づき、配慮が必要な生徒への支援を行う	適切な指導(配慮)の手法の理解と実施、外部機関との連携	4 適切に行った 3 2 1 適切に行うことができなかった	4	4 先生は生徒一人一人のことを考えてくれている(9割) 3 先生は生徒一人一人のことを考えてくれている(8割) 2 先生は生徒一人一人のことを考えてくれている(5割以上) 1 先生は生徒一人一人のことを考えてくれている(5割未満)	3	適切に行うことができなかったと回答した教員が8%いた。個にあった指導と支援について共通理解をもつことが必要である。	教員の方々の愛情ある日々の努力には頭がさがる。	A	相談部会を中心に、適切な支援の方法を考え実施する。外部機関との連携を充実させる。

学校教育目標	進んで勉強しよう 思いやりのある人になろう 進んで心身をきたえよう	【目指す学校像】	1生徒が安全で安心して生活できる学校 2将来の夢や目標の実現に向けて生き生きと生活できる学校 3伝統と創造を重んじ、生徒・保護者・地域が共に支え合う学校
		【目指す児童・生徒像】	1探求心・創造性を持ち、学び続ける生徒 2多様性を認め、正義を大切にできる生徒 3心身の健康を目指し、己を鍛える生徒
		【目指す教師像】	1人権を重んじ、生徒一人一人の良さを認め、言葉を大切にする教師 2専門性、指導力を磨き合い、組織として高め合う教師 3豊かな人間性を備え生徒・保護者・地域から信頼される教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎的・基本的な知識・技能の確実な育成と個に応じた指導の充実	わかる授業を目指した指導方法及び「振り返り」の工夫改善	学びを深める効果的な「振り返り」の実践	4 定期的に授業の分析・改善を行った90%以上	4	4 「振り返り」が学習の定着に役立っている90%以上	4	生徒90.8%と中間時より0.7%上がった。若干ではあるが、授業改善の成果が表れた。	A	授業力向上アドバイザー事業での学びを今後も活かし、更に効果的な振り返りを実践していく。	
				3 定期的に授業の分析・改善を行った80%以上		3 「振り返り」が学習の定着に役立っている80%以上					
				2 定期的に授業の分析・改善を行った70%以上		2 「振り返り」が学習の定着に役立っている70%以上					
		ICT機器を効果的に活用した多様な指導方法の実践	デジタル教材やアプリを活用した学習効率を高める授業の実施	4 生徒の意欲と理解を促すICT機器の活用に向けた「はい」が80%以上	4	4 タブレットを活用したわかりやすい学習活動95%以上	2	中間時より生徒84.2%と4%増加。昨年度並みだが、さらに数値が上がるよう、工夫改善する。	A	ICT機器を活用し、授業改善に取り組んでいる。	
				3 生徒の意欲と理解を促すICT機器の活用に向けた「はい」が70%以上		3 タブレットを活用したわかりやすい学習活動90%以上					
				2 生徒の意欲と理解を促すICT機器の活用に向けた「はい」が60%以上		2 タブレットを活用したわかりやすい学習活動80%以上					
		学習意欲の向上と家庭学習の定着	課題の出し方の工夫と学習計画表の活用	4 家庭学習への指導を毎週行った80%以上	4	4 家庭学習の時間が平均1～2時間が80%以上	2	生徒60.1%で中間時より約10%上がった。1・2年生の取組を強化していくことが課題である。	C	組織的に家庭も巻き込み、家庭学習の習慣を確立できるよう支援することが必要である。	
				3 家庭学習への指導を毎週行った70%以上		3 家庭学習の時間が平均1～2時間が70%以上					
				2 家庭学習への指導を毎週行った65%以上		2 家庭学習の時間が平均1～2時間が60%以上					
豊かな心	自らを高め、多様性を尊重する態度と豊かな感性、創造力、表現力の育成	生命尊重の精神の育成を基盤とした高い人権感覚を培う教育活動の実践	いじめ根絶の働き掛けとふれあい月間の取組の充実	4 生徒の変化を見逃さないように努めた100%	4	4 落ち着いて安心して生活できている100%	2	生徒92.5%で中間時に比べ0.7%減少。2学期以降の生活指導の発生状況が影響している。	B	研修を実施し、いじめの未然防止、早期発見、初期対応について、個々の教員の力量を高めていく。	
				3 生徒の変化を見逃さないように努めた95%以上		3 落ち着いて安心して生活できている95%以上					
				2 生徒の変化を見逃さないように努めた90%以上		2 落ち着いて安心して生活できている90%以上					
		多様で豊かな教育活動による自己有用感の醸成	集団の一員としての自覚をもち、個性を認め、協力し合える生徒の育成	4 生徒の心に寄り添い、良さを活かす支援を行った「はい」が80%以上	4	4 他者と協力し、達成感を味わえる体験ができた100%以上	3	生徒96.1%で中間時より6.8%上昇。行事の中で生徒主体の取組ができた。	A	多様な教育活動が見られ、生徒は落ち着いた生活を送ることができている。	
				3 生徒の心に寄り添い、良さを活かす支援を行った「はい」が70%以上		3 他者と協力し、達成感を味わえる体験ができた90%以上					
				2 生徒の心に寄り添い、良さを活かす支援を行った「はい」が60%以上		2 他者と協力し、達成感を味わえる体験ができた80%以上					
		他者理解を心掛け人間関係における課題を見つけ解決していく生徒の育成	学級活動・行事・生徒会活動・部活動等における円滑な人間関係の構築	4 生徒一人一人が活躍できる教育活動を行った「はい」が80%以上	4	4 行事、学級活動を通して思いやりのある行動がとれた100%	3	生徒95.2%で中間時より2.2%減少したが、高水準は維持できている。リーダーの育成が課題。	B	継続して、他者への理解を深めていく。	
				3 生徒一人一人が活躍できる教育活動を行った「はい」が70%以上		3 行事、学級活動を通して思いやりのある行動がとれた95%以上					
				2 生徒一人一人が活躍できる教育活動を行った「はい」が65%以上		2 行事、学級活動を通して思いやりのある行動がとれた90%以上					
健やかな体	健康的な生活習慣・食習慣による、心身ともに健やかな生徒の育成	自ら健康管理のできる生徒の育成	早寝・早起き・朝ごはんの取組の働きかけ	4 生徒の生活習慣の改善を助言・指導した95%以上	3	4 自ら進んで生活習慣の改善に努めた95%	1	生徒83.9%で中間時より6.9%減少し、昨年度よりの数値にも届かず受験勉強による睡眠不足もある。	C	家庭を巻き込みながら、生活習慣を整える必要がある。	
				3 生徒の生活習慣の改善を助言・指導した85%以上		3 自ら進んで生活習慣の改善に努めた90%以上					
				2 生徒の生活習慣の改善を助言・指導した80%以上		2 自ら進んで生活時間の改善に努めた85%以上					
		食に関する知識・理解・実践力を高め、健康的な食生活の推進	栄養士と食育担当の連携による給食指導を活用した食育の推進	4 食事のマナーや食文化等の指導を行った100%以上	1	4 食育で学んだ知識を生活に生かしている100%	1	生徒74.5%で中間時より11.5%の減少。自己の生活に取り入れられる指導を充実させることが課題。	B	必要な対応を継続し、食の知識や食べ物のありがたさを教える。	
				3 食事のマナーや食文化等の指導を行った90%以上		3 食育で学んだ知識を生活に生かしている90%以上					
				2 食事のマナーや食文化等の指導を行った80%以上		2 食育で学んだ知識を生活に生かしている80%以上					
		体力向上に向けた教育活動の推進	体育の授業、行事、昼休みの校庭開放、部活動等を通じた運動習慣の確立	4 運動に親しむ取り組みを行った90%以上	1	4 学校でたくさん体を動かしている90%以上	3	生徒83.9%で中間時より17.2%上がった。運動に適した気候になったと考える。	B	体力はあるが、今後も継続した取り組みが必要である。	
				3 運動に親しむ取り組みを行った80%以上		3 学校でたくさん体を動かしている80%以上					
				2 運動に親しむ取り組みを行った75%以上		2 学校でたくさん体を動かしている70%以上					
輝く未来	自己を見つめ、生き方を考えていくための資質・能力の育成	自己の将来を切り拓く、キャリア教育の推進	総合的な学習の時間を活用した自らの生き方を考え、自己決定していく指導の推進	4 生徒が主体的に課題解決できるように指導した80%以上	4	4 自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う100%	2	生徒94.1%で中間時より1.4%上昇。評価は2だが2・3年生のキャリア教育の成果である。	C	必要な対応が行われている。将来をどのように考えていくのか、継続して取り組む必要がある。	
				3 生徒が主体的に課題解決できるように指導した70%以上		3 自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う95%以上					
				2 生徒が主体的に課題解決できるように指導した60%以上		2 自分の生活を振り返り、よりよくしようと思う90%以上					
		自身の変容や成長を自己評価する取組の充実	行事や学期ごとのキャリアパスポートの活用	4 計画的にキャリアパスポートを活用した90%以上	1	4 自分の得意なことを考えることができた100%	2	生徒91.4%で中間時より13.3%上昇。評価は2だが2・3年生のキャリア教育の成果である。	B	必要な対応が行われている。キャリアパスポートも計画的に活用されている。	
				3 計画的にキャリアパスポートを活用した80%以上		3 自分の得意なことを考えることができた95%以上					
				2 計画的にキャリアパスポートを活用した70%以上		2 自分の得意なことを考えることができた90%以上					
		目標達成までのプロセスを重視した指導の充実	生徒や保護者に寄り添い、丁寧かつ誠実な進路指導の実施	4 生徒が主体的に取り組めるよう指導した85%以上	4	4 将来の生き方について自ら進んで考えた95%以上	2	生徒86.6%で中間時より7.7%上昇。特に3年生が伸び、進路選択への真剣さが表れた。	A	先生方の指導はとてもありがたい。	
				3 生徒が主体的に取り組めるよう指導した75%以上		3 将来の生き方について自ら進んで考えた90%以上					
				2 生徒が主体的に取り組めるよう指導した65%以上		2 将来の生き方について自ら進んで考えた80%以上					